



# 香美町人口ビジョン

第2版

香 美 町



## 目次

1. 改定にあたって	1
(1) 位置づけ	1
(2) 改定内容	1
(3) 国の長期ビジョン	1
2. 人口の動き	3
(1) 人口と世帯数の動向	3
(2) 年齢別人口	3
(3) 人口動態	7
(4) 人口の動きについてのまとめ	15
(5) 人口の変化が町の将来に与える影響	16
3. 将来人口推計	17
(1) 国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計	17
(2) 国の指導によるシミュレーション	17
(3) 町の将来人口推計の検討	18
(4) 移住世帯の加算の検討	19
4. 人口の将来展望	24
(1) 若者の将来意向	24
(2) めざすべき将来の方向と今後の基本戦略	26
(3) 人口の将来展望	27
【参考1】地区別推計	29
【参考2】人口ピラミッド（2005年、2025年、2045年）	35

# 1. 改定にあたって

## (1) 位置づけ

香美町人口ビジョンは、本町における人口の現状と将来の変化を分析し、人口に関する町民の認識を共有し、今後めざすべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。

この人口ビジョンは、人口減少が地域の将来に与える影響の分析・考察、そしてめざすべき将来の方向性を提示することにより、「香美町総合計画」及び「香美町総合戦略」において効果的な施策を検討、立案する上で、重要な基礎として位置付けられるものです。

2008（H20）年に始まった日本の人口減少は、今後加速度的に進み、経済規模の縮小や社会保障費の増加、コミュニティの弱体化等地域社会に大きな影響を及ぼす恐れが強いことから、国は2014（H26）年12月に国と地方が総力をあげて地方創生・人口減少克服に取り組むため、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（人口ビジョン）」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。本町においてもこれを受け、長年にわたって人口減少傾向が続き、さらに急減する時代を迎えることから、2015（H27）年10月に「香美町人口ビジョン」を策定しました。

その後4年余りが経過し、国においては、第2期における「人口ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定を進めています。本町でも「香美町総合戦略」の計画期間が令和元年度末をもって満了となることから、令和2年度以降の更なる地域活性化の展開に向けて次期6カ年の香美町総合戦略の策定に向け、近年の人口動態や人口減少を踏まえ、「香美町人口ビジョン」の改定を行います。

## (2) 改定内容

2018（H30）年3月に、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）から「日本の地域別将来推計人口」が公表されました。この推計は、2015（H27）年の国勢調査を基に、2015（H27）年10月1日から2045（R27）年までの30年間（5年毎）の男女年齢（5歳）階級別の将来人口となっています。

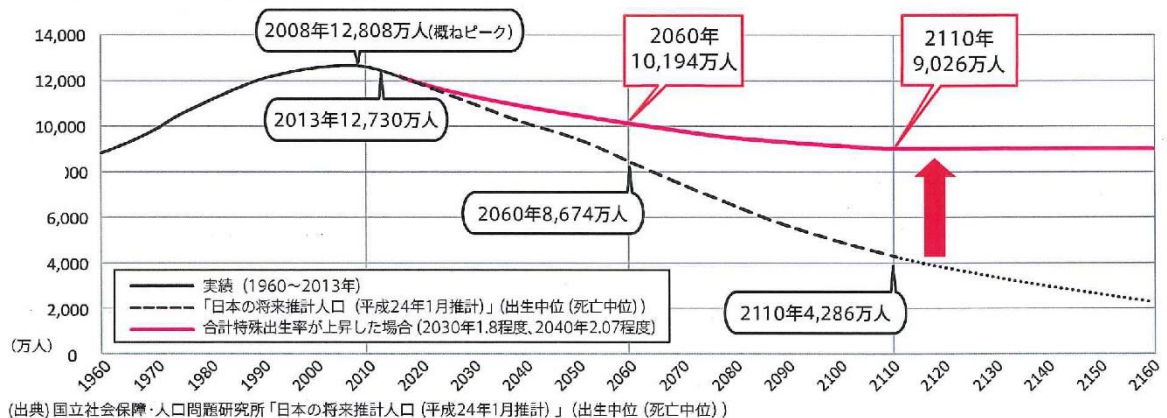
この「日本の地域別将来推計人口」及び直近の国勢調査結果を反映した形での本町の人口分析の修正及び人口の変化が将来に与える影響の分析と考察を行い、香美町人口ビジョン（第2版）を策定します。なお、香美町人口ビジョンの対象とする期間は、2065年（R47）までとします。

## (3) 国の長期ビジョン

### ①長期ビジョンの趣旨

国の長期ビジョンの趣旨は、人口減少に歯止めをかけ、2060年に1億人程度の人口を維持することをめざし、その目標を達成するために、日本の人口動向を分析し、将来の展望を示すものです。

## ■我が国の人口の推移と長期的な見通



### ②人口の現状と将来展望

日本全体としては、2008(H20)年をピークとして人口減少時代に入出し、今後さらに人口が減少し続けると推計されています。その傾向は地域によって異なり、東京圏や大都市圏よりも地方において本格的な人口減少に直面している市町村が多くなっています。

一方では、地方から東京への人口流入が続いており、特に若い世代が、過密で出生率が極めて低い東京圏に流入することで、日本全体として少子化に拍車がかかっています。

人の流れを東京圏から地方に変えることにより、出生率の改善につながり、その対応が早いほどその効果は大きいことから、人口減少に歯止めをかけることに効果があります。

### ③めざすべき将来の方向と基本戦略

基本方向は、将来にわたって活力ある日本社会を維持することであり、そのためには地方への移住や結婚・出産・子育ての希望を実現することです。

基本方向に沿って取り組むべき「政策目標」については、以下のように考えられます。

- ・人口減少克服・地方創生に正面から取り組むとともに、地域の特性に即した対応や制度全般の見直しを進めていく必要があります。
- ・以下の中期的な政策目標を提示しています。
  - ア. 「東京一極集中」の是正
  - イ. 若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現
  - ウ. 地域の特性に即した地域課題の解決

そのため、国民的議論を喚起し、人口減少は国家の根本に関する問題であるとの基本認識を共有し、中長期的な目標を掲げ、継続的に取り組むことが求められます。

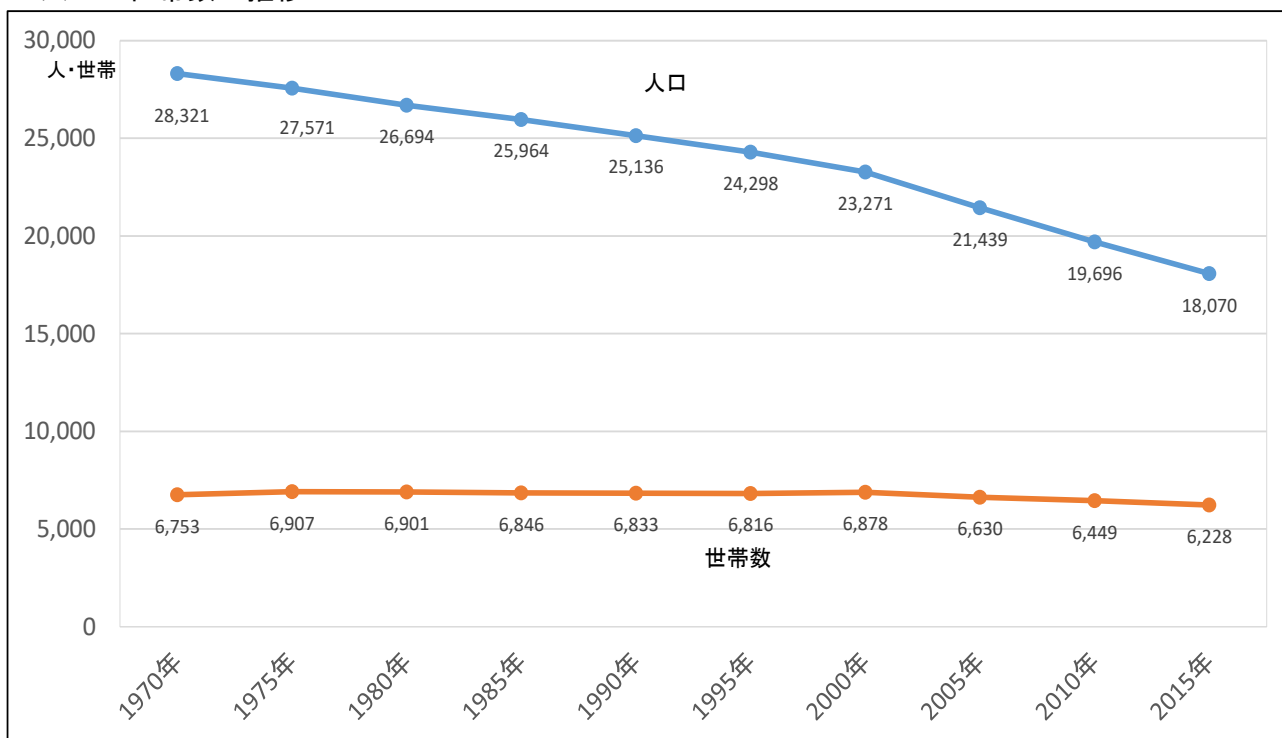
また、地域住民の参加も得る形で、地方の発意と自主的な取組を基本とし、国がそれを様々な面で支援していきます。

## 2. 人口の動き

### (1) 人口と世帯数の動向

香美町の人口は、長年減少を続けており、特に2000（H12）年以降の減少が著しくなっています。世帯数についても1975年（S50）をピークに横ばいから減少傾向にあります。2015（H27）年の人口は18,070人となり、2010（H22）年から5年間で1,626人減少しています。

#### ■人口・世帯数の推移



	1970年 S45	1975年 S50	1980年 S55	1985年 S60	1990年 H2	1995年 H7	2000年 H12	2005年 H17	2010年 H22	2015年 H27
人口	28,321	27,571	26,694	25,964	25,136	24,298	23,271	21,439	19,696	18,070
世帯数	6,753	6,907	6,901	6,846	6,833	6,816	6,878	6,630	6,449	6,228

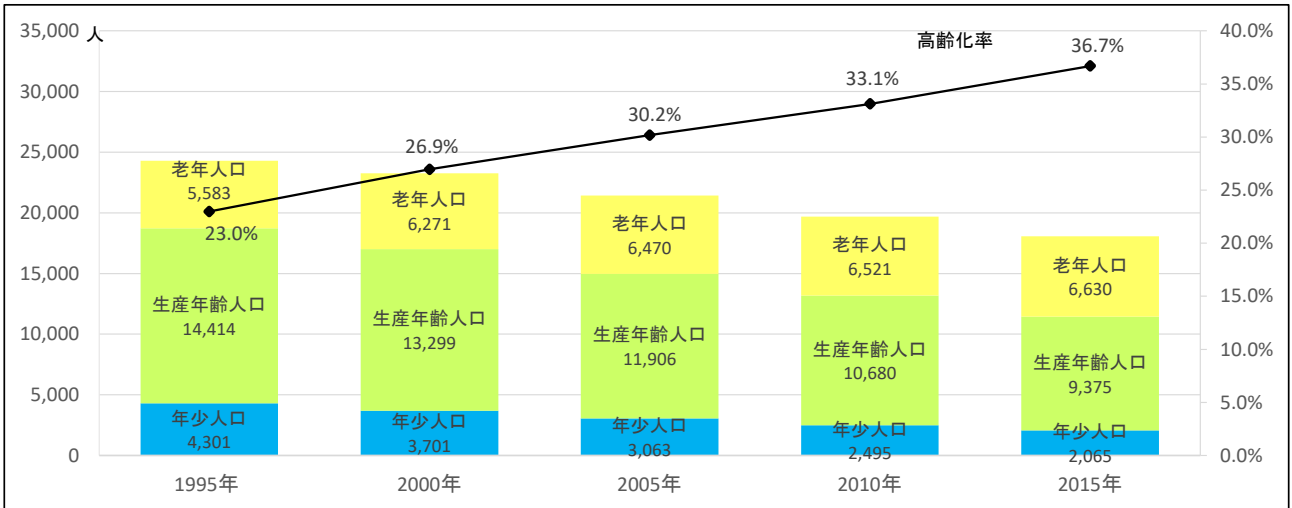
資料:国勢調査

### (2) 年齢別人口

年齢3区分別では生産年齢人口と年少人口の減少が著しく、高齢人口割合は、1995（H7）年から20年間で13.7%も上昇しており、年齢別では、若者の転出により「20～24歳」が少なく、また、子どもについても年齢が低いほど人数が少なくなっています。

「5～14歳」の子どもの20年後の定着率は低下傾向がみられ、1995（H7）年の「5～14歳」と20年後の2015（H27）年の「25～34歳」を比べた定着率は4割強となっています。

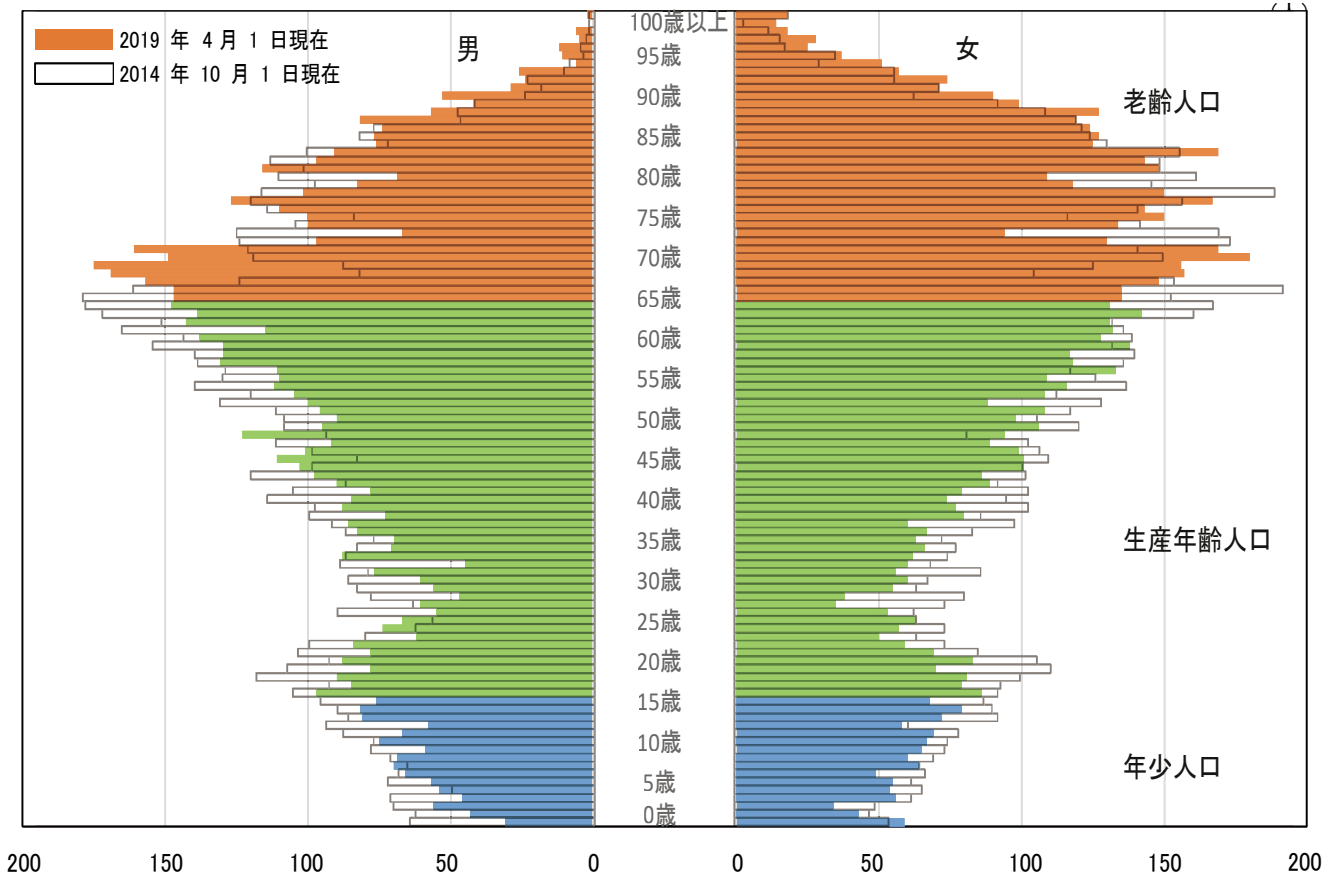
### ■年齢3区分別人口と割合の推移



	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年
年少人口(0歳-14歳)	4,301	3,701	3,063	2,495	2,065
生産年齢人口(15歳-64歳)	14,414	13,299	11,906	10,680	9,375
老年人口(65歳以上)	5,583	6,271	6,470	6,521	6,630
年少人口割合	17.7%	15.9%	14.3%	12.7%	11.4%
生産年齢人口割合	59.3%	57.2%	55.5%	54.2%	51.9%
老年人口割合(高齢化率)	23.0%	26.9%	30.2%	33.1%	36.7%

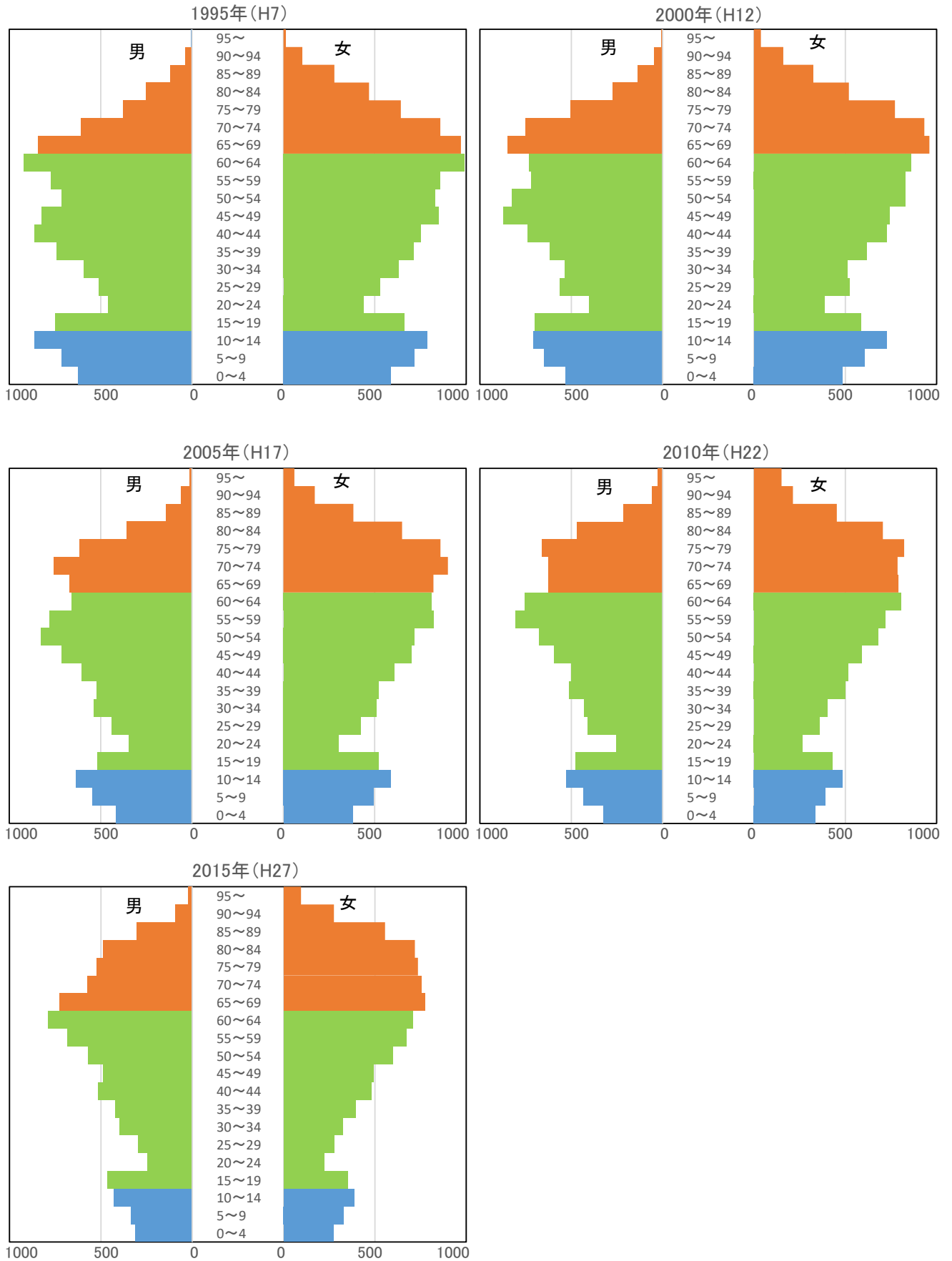
資料:国勢調査

### ■年齢別人口



資料:住民基本台帳

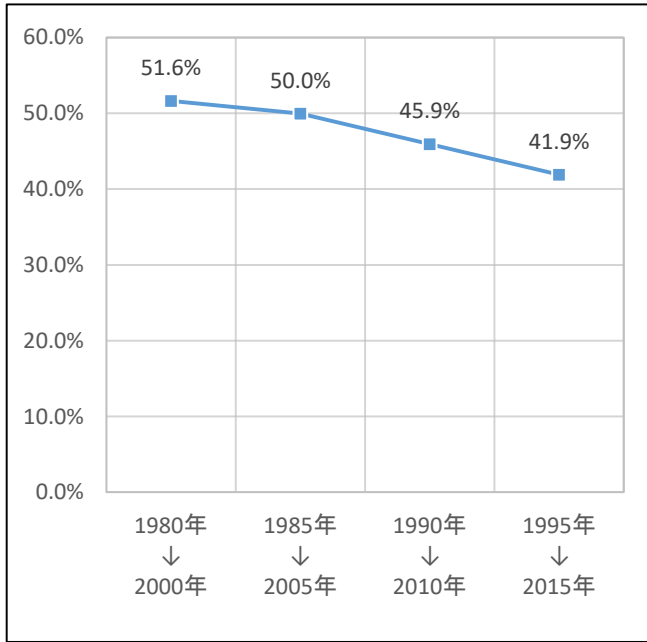
■5歳階級別人口の推移



資料:国勢調査



■子ども（5～14歳）の20年後の定着率の推移



(人)				
	1980年 (S55)	1985年 (S60)	1990年 (H2)	1995年 (H7)
5～14歳	4,136	3,832	3,478	3,085

▽ 20年後

(人)				
	2000年 (H12)	2005年 (H17)	2010年 (H22)	2015年 (H27)
25～34歳	2,136	1,915	1,598	1,293

定着率

	1980年 ↓ 2000年	1985年 ↓ 2005年	1990年 ↓ 2010年	1995年 ↓ 2015年
5～14歳 ↓ 25～34歳	51.6%	50.0%	45.9%	41.9%

資料:国勢調査

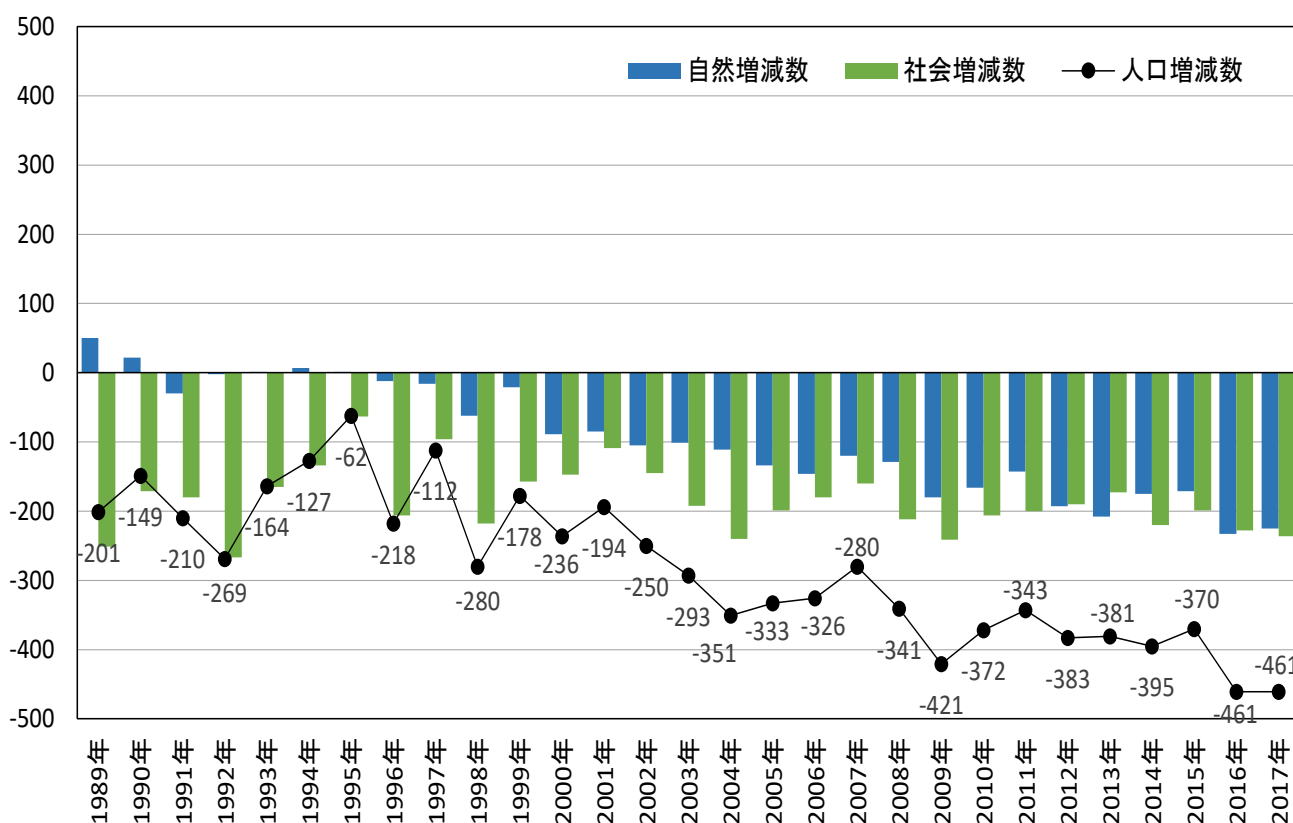
### (3) 人口動態

人口の増減は、出生と死亡の差による自然動態と転入と転出の差による社会動態によります。

香美町の特徴的な傾向としては、1991（H3）年に死亡が出生を上回る自然減となり、以降その動きが進み、同時に、一貫して転出が転入を上回る社会減が続いています。なお、近年は、死亡が転入を上回って、ますます人口減少が進んでおります。

#### ■自然動態・社会動態の推移

(人)



資料:住民基本台帳

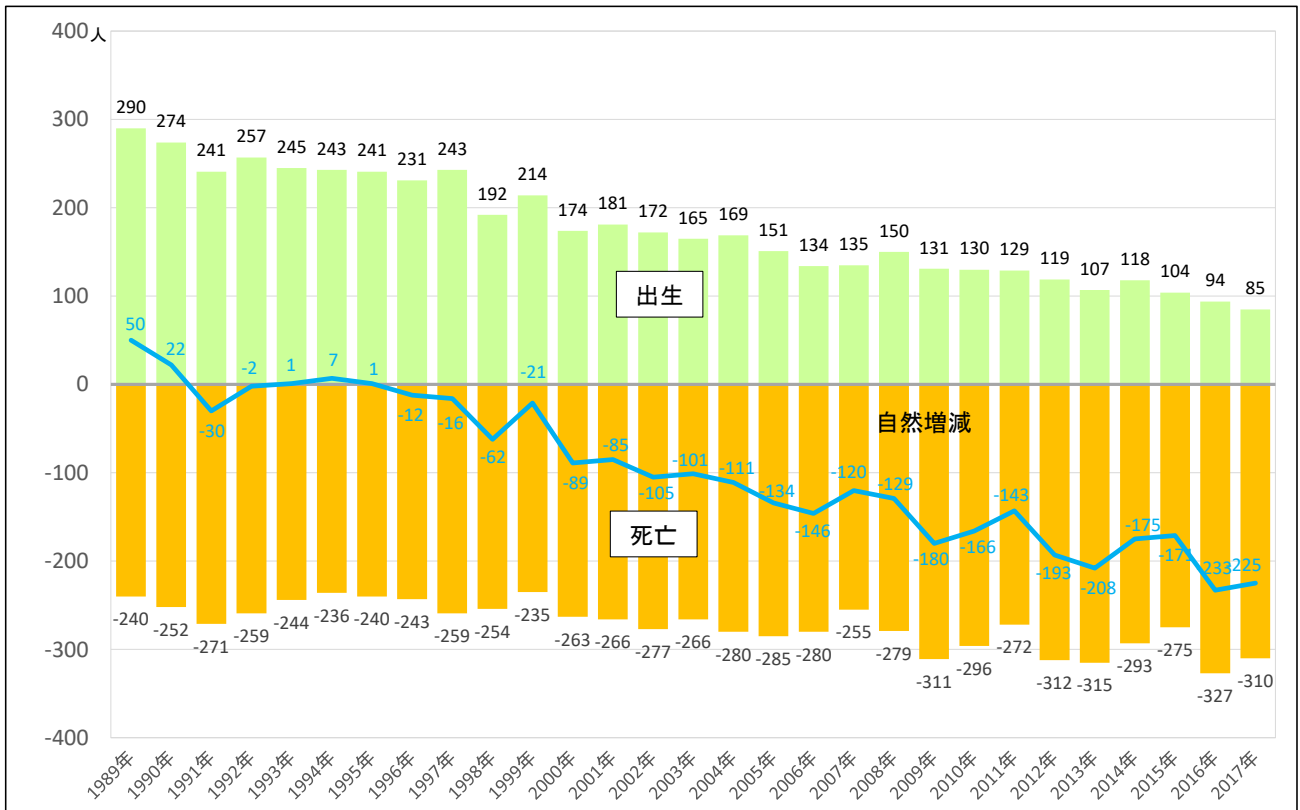
#### ①自然動態

若い世代の減少に伴い出生は次第に減少し、一方、高齢化に伴い死亡は増加して、自然減が進んでいます。

1985（S60）年には2.35であった合計特殊出生率（一人の女性が一生に産む子どもの数）は、2005（H17）年には1.72に落ち込んだものの、2010（H22）年には1.84に回復しました。その後、2015（H27）年はやや減少し1.82となっています。

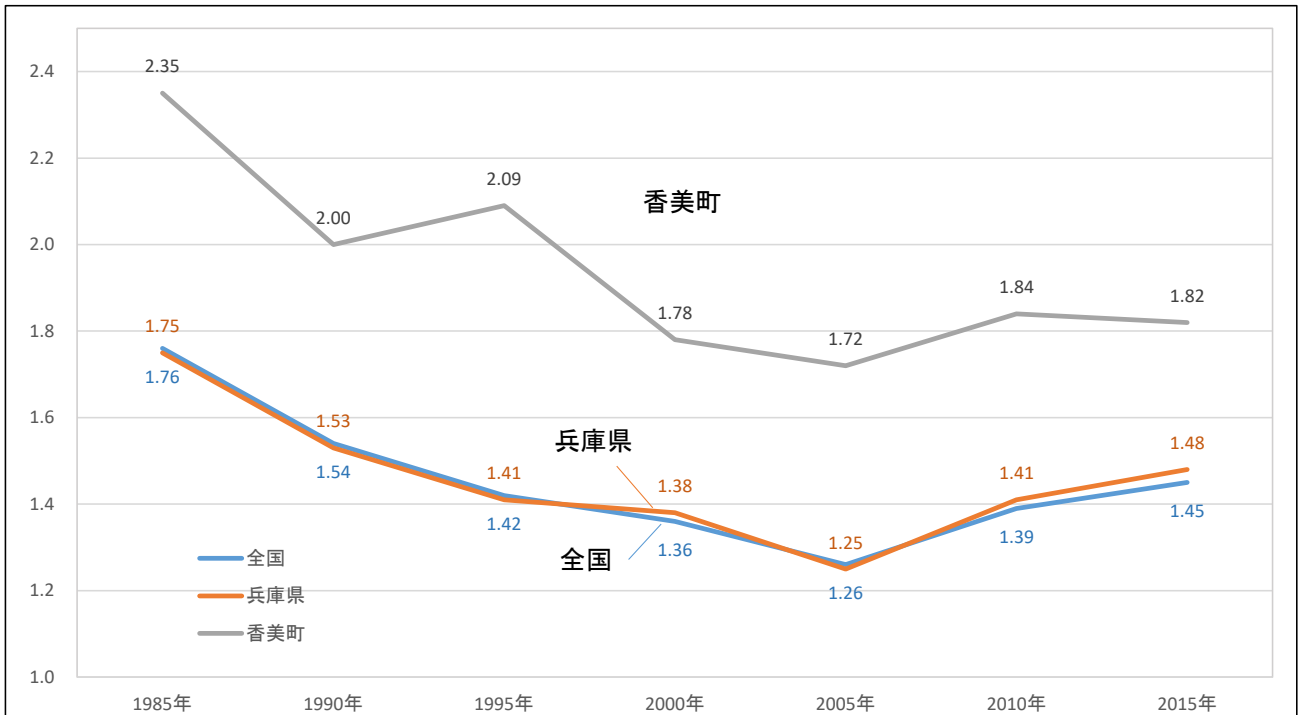
全国的にみると高い水準を維持していますが、近年、全国や兵庫県の合計特殊出生率が回復している一方で、本町では減少しています。

## ■出生数、死亡数、自然増減の推移



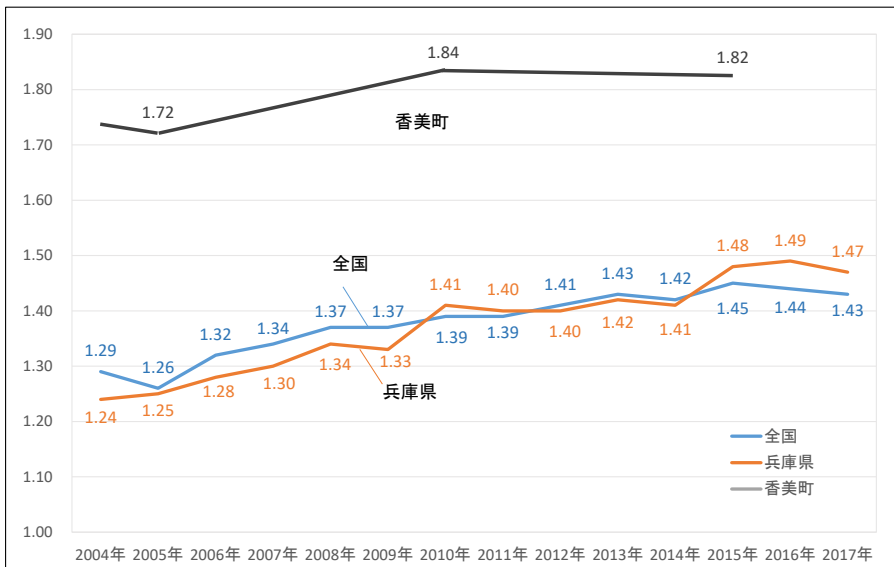
資料:住民基本台帳

## ■合計特殊出生率の推移 (1985~2015)



資料:国勢調査

## ■合計特殊出生率の推移（2004年以降）

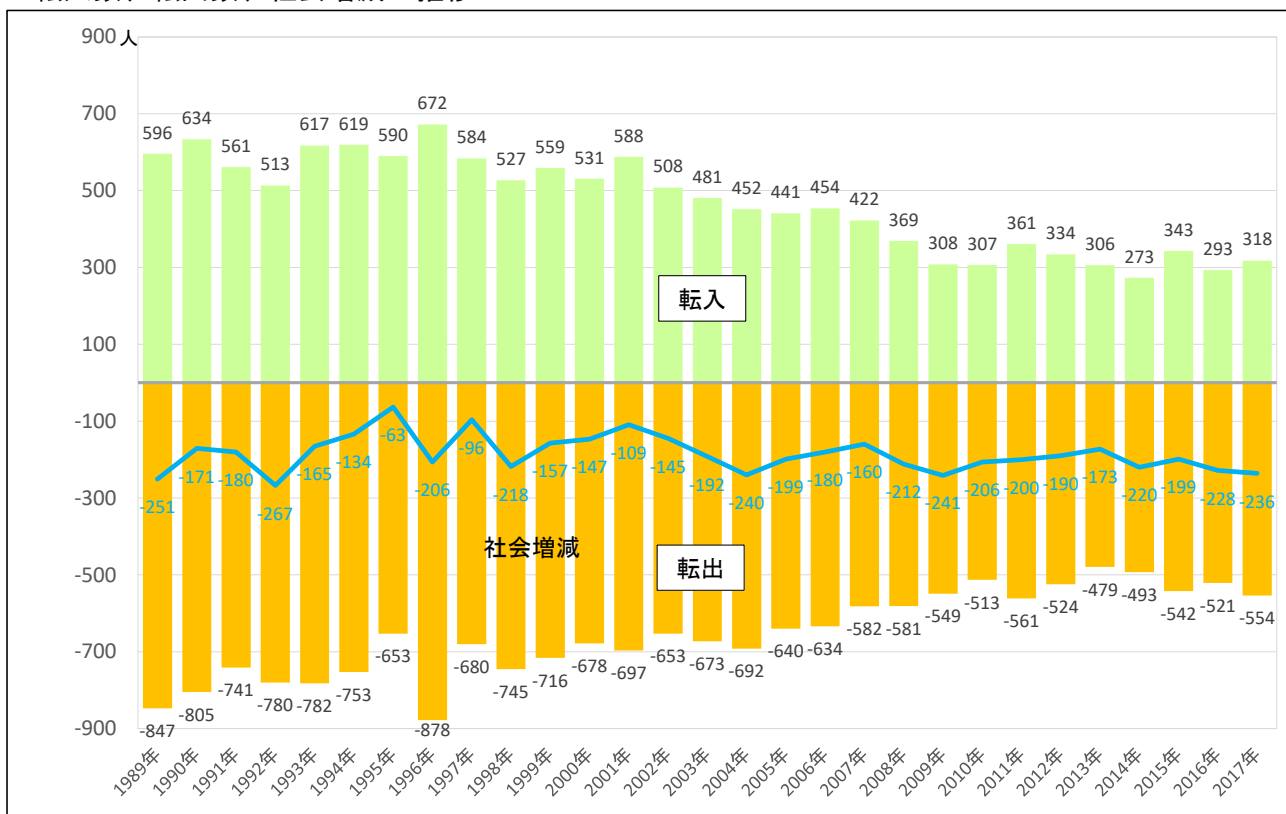


## ②社会動態

転入・転出ともに縮小しながら、転出が転入を上回る転出超過が続いています。転出超過の数そのものは、必ずしも増加しているわけではありませんが、人口が減少する中、人口に対する割合では大きくなっています。転入・転出人口の年齢別の状況をみると、「15～19歳」「20～24歳」「25～29歳」の転出超過が著しく、2018（H30）年には「30～34歳」も転出数が大きく増加しています。一方、転入超過は、わずかな世代に限られています。

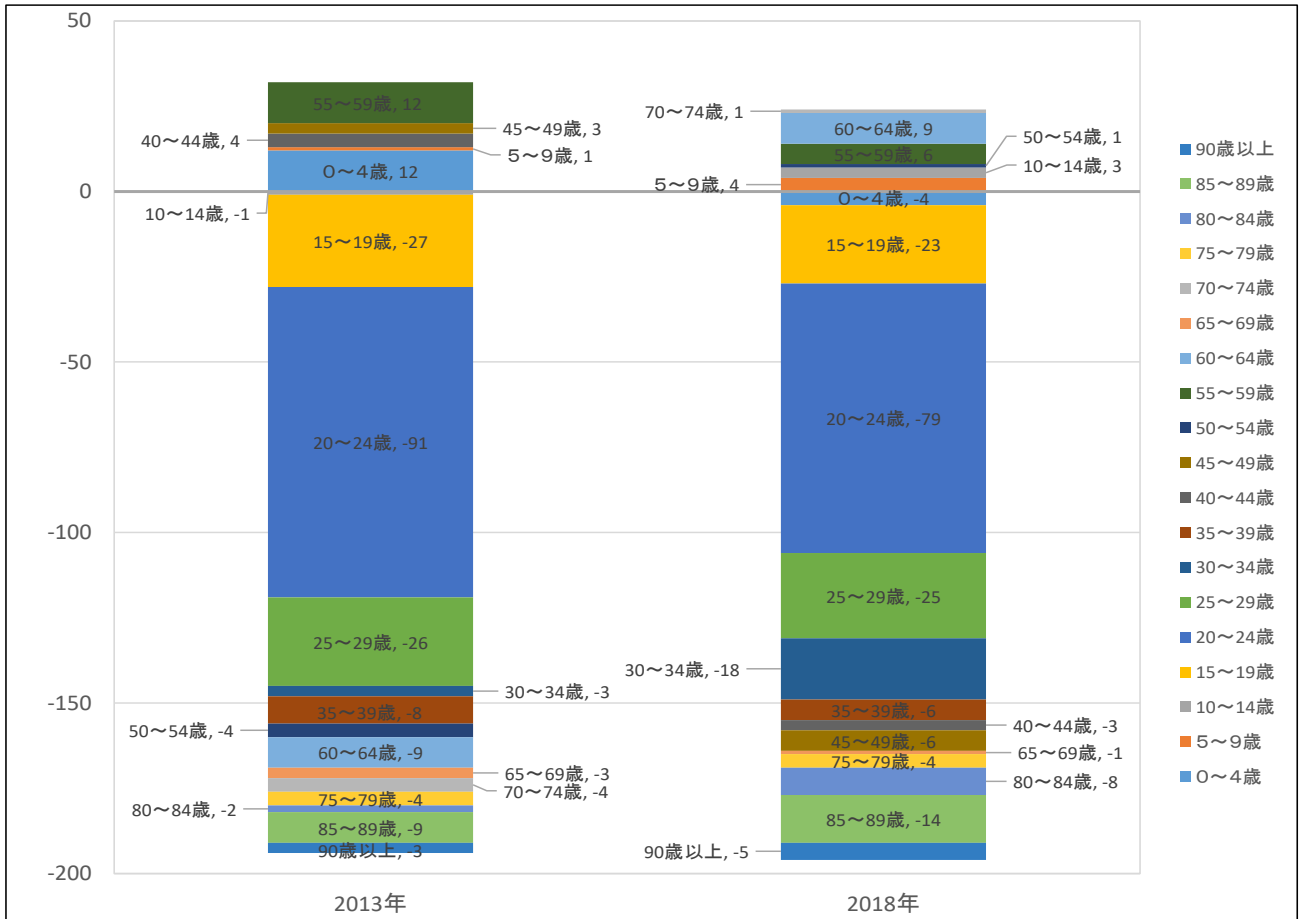
近隣都市との転出入では、豊岡市との関係が一番大きく、転出超過が著しくなっています。他府県との関係では、大阪府への転出超過が著しくなっています。

## ■転入数、転出数、社会増減の推移



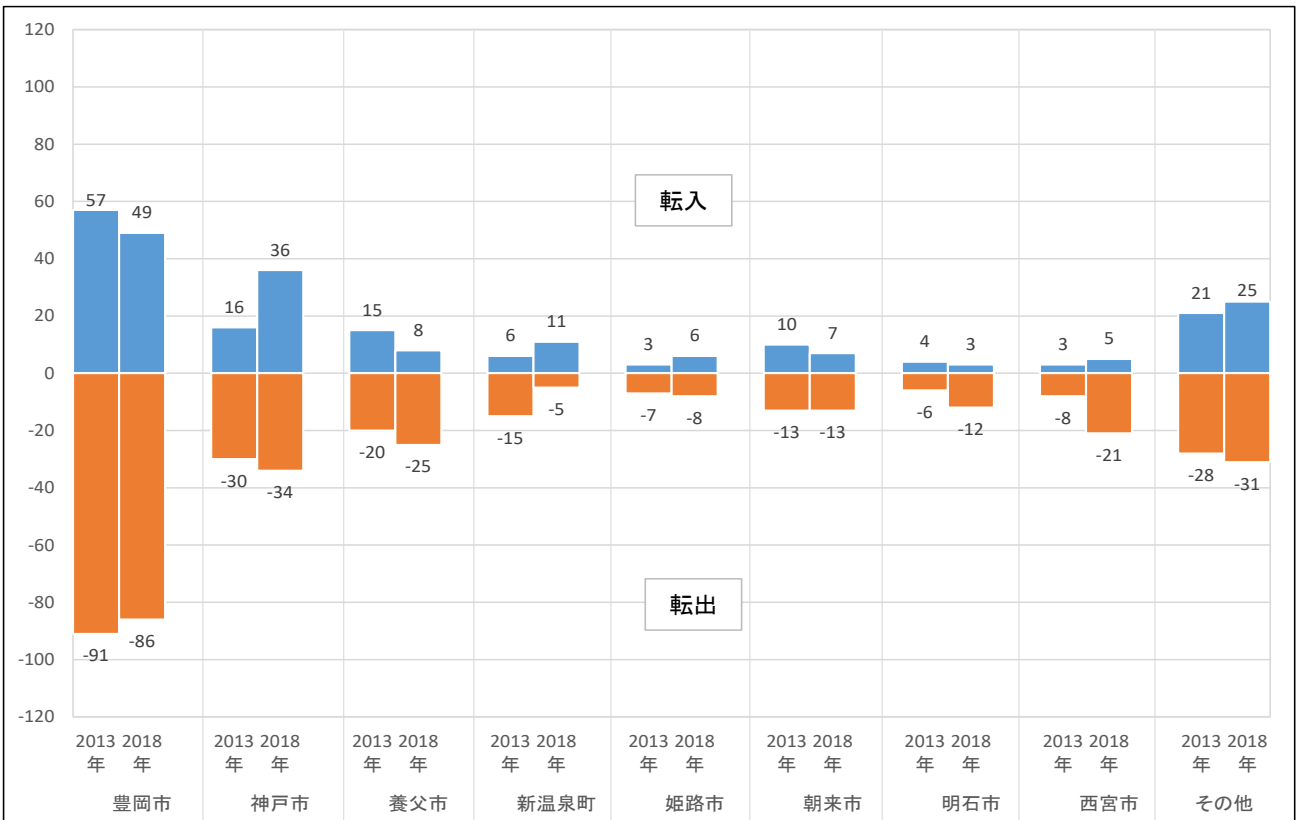
資料：国勢調査

### ■年齢5歳階級別人口移動の状況



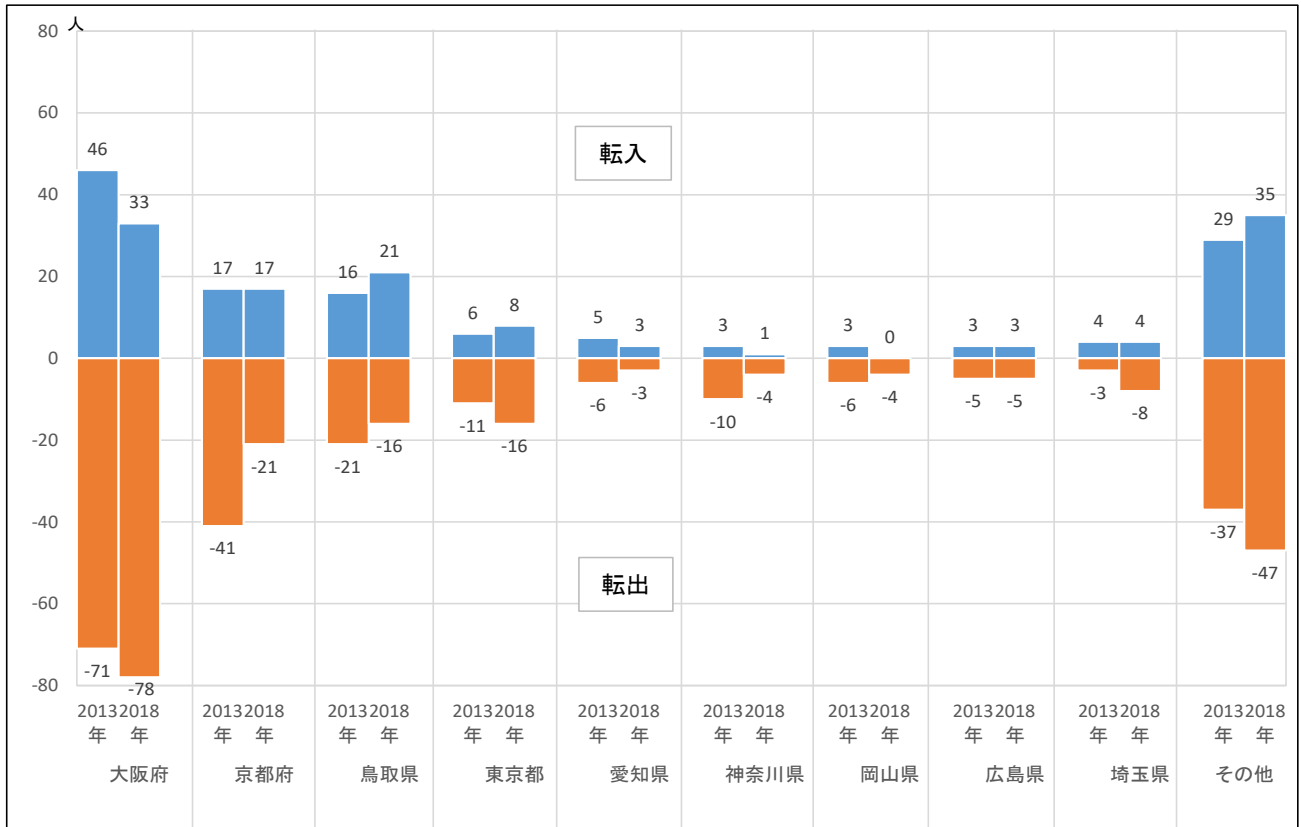
資料:住民基本台帳

### ■兵庫県下の各市への人口移動



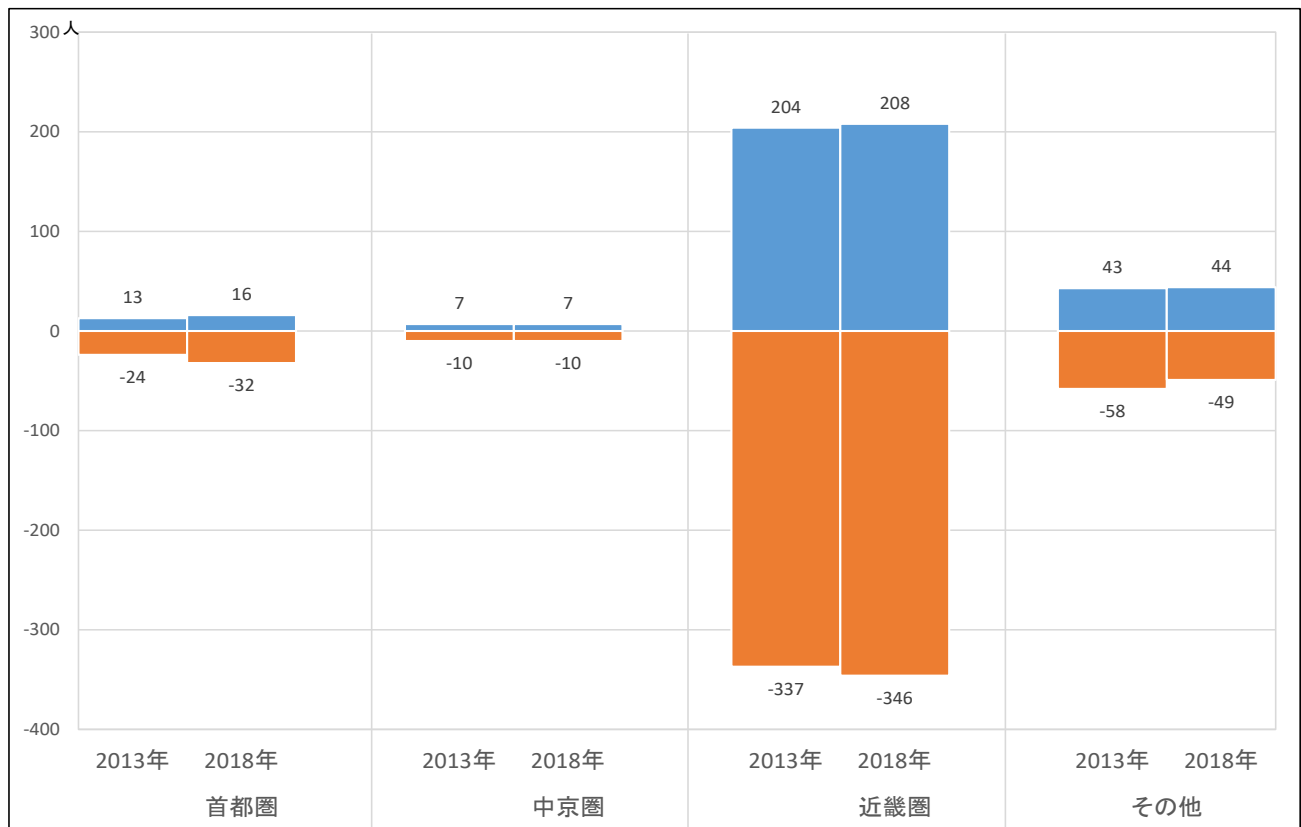
資料:住民基本台帳

### ■他府県への人口移動



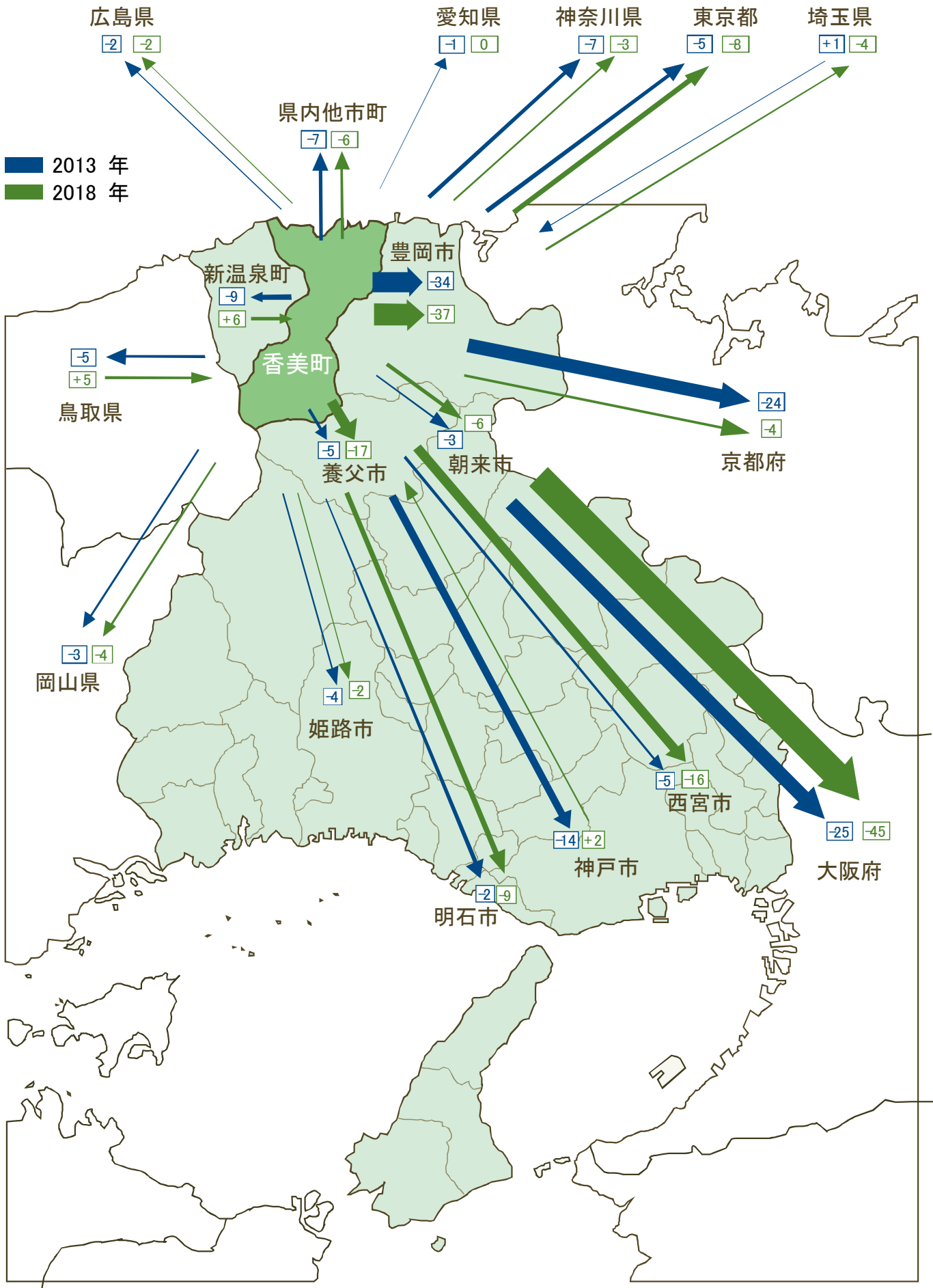
資料:住民基本台帳

### ■三大都市圏への人口移動

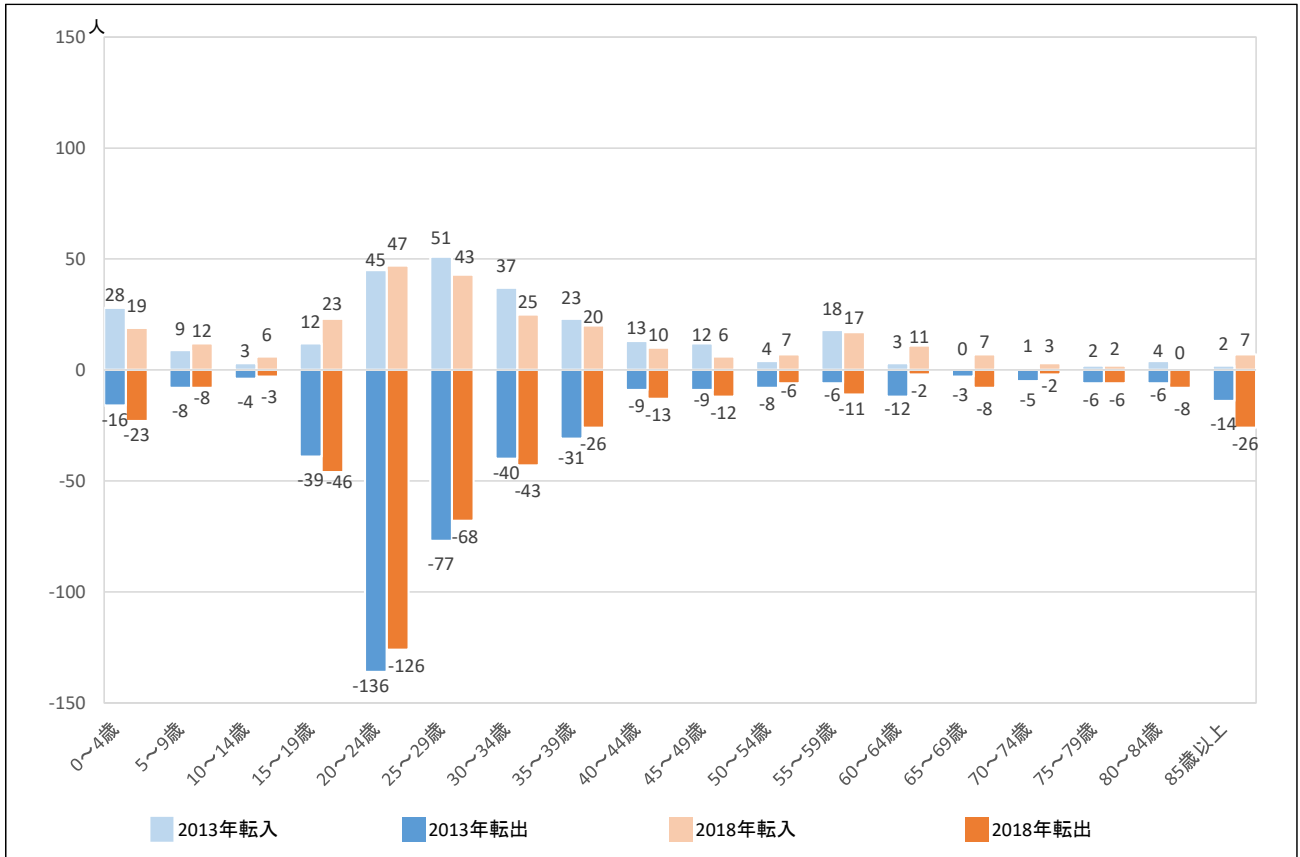


資料:住民基本台帳

■人口移動図



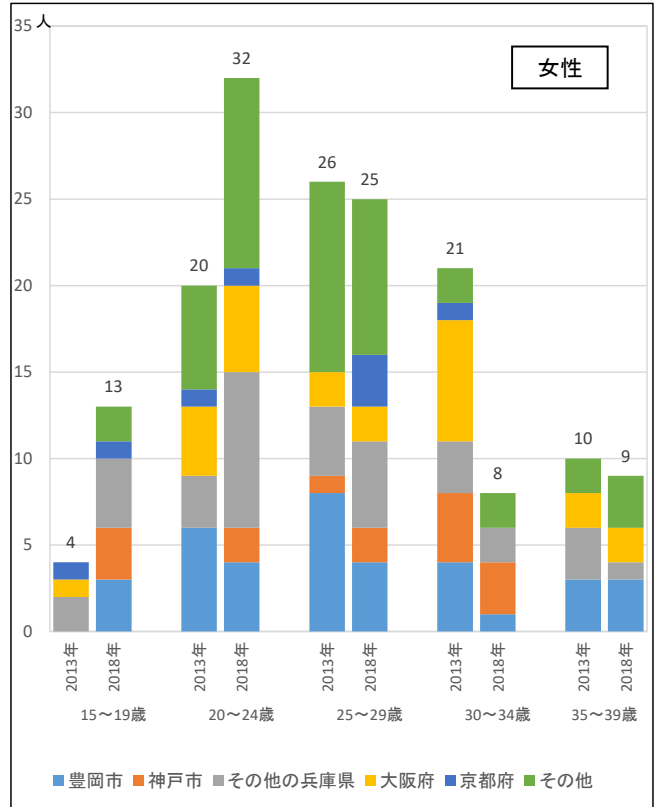
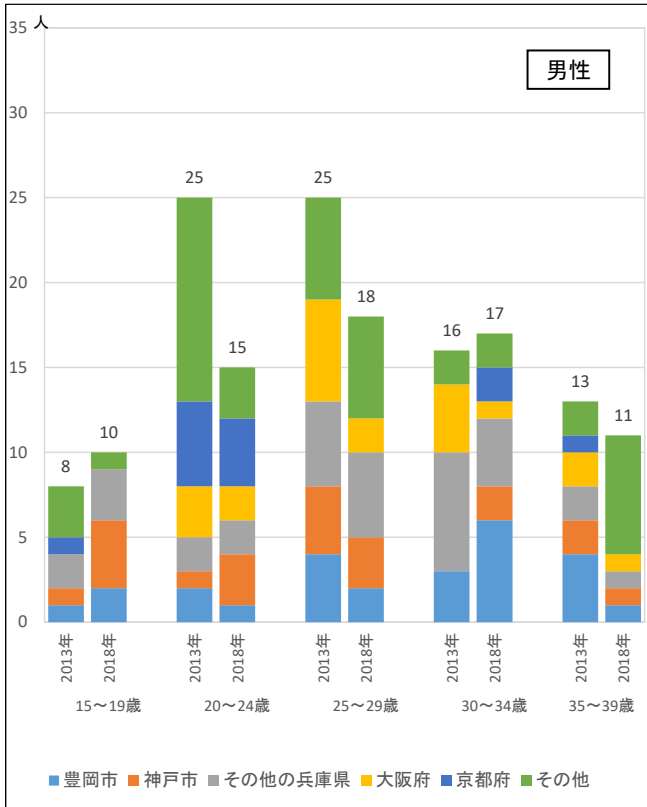
■年齢5歳階級別の人口移動



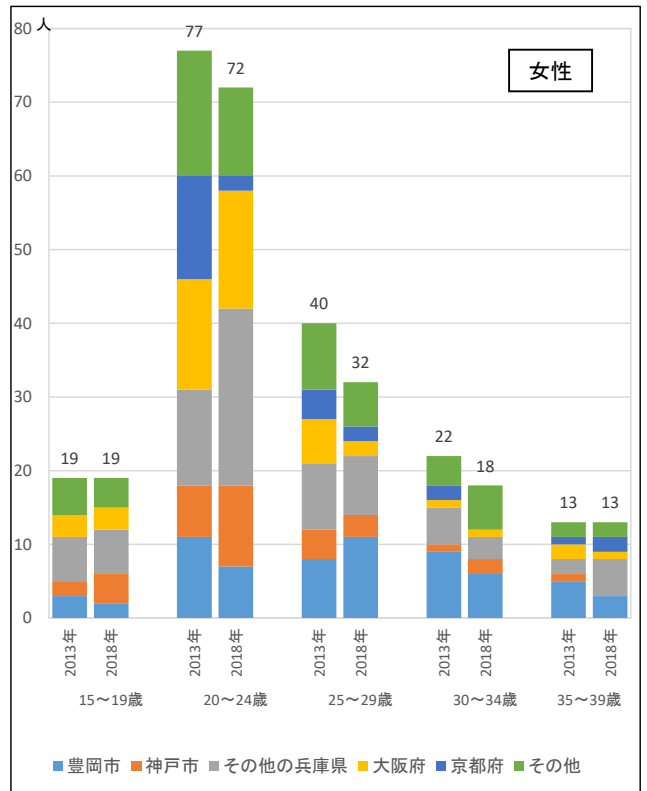
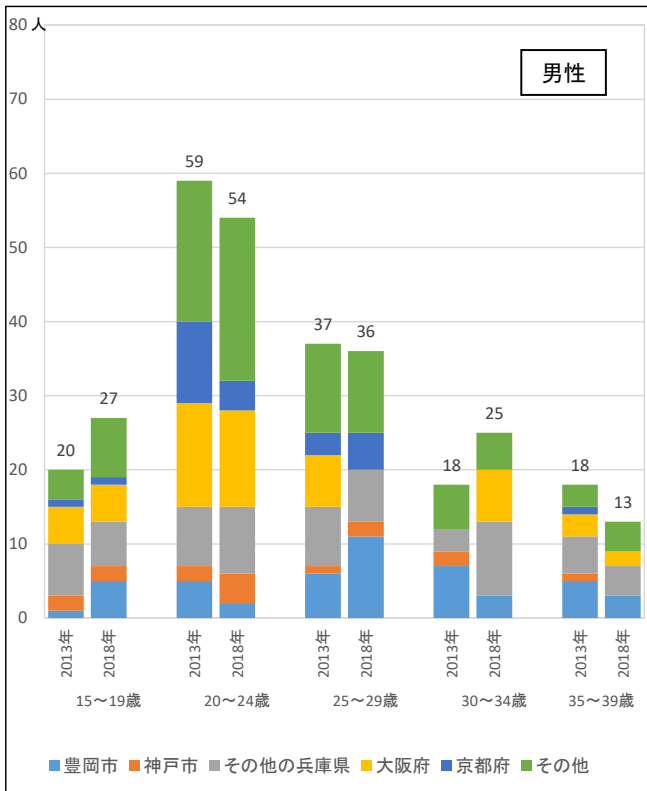
資料:住民基本台帳



■年齢5歳階級別の転入元（15～19歳、20～24歳、25～29歳、30～34歳、35～39歳）



■年齢5歳階級別の転出先（15～19歳、20～24歳、25～29歳、30～34歳、35～39歳）



## (4) 人口の動きについてのまとめ

香美町の人口の動きからみた特徴をまとめると、以下のとおりです。これらを踏まえて、人口の将来展望を検討することになります。

### ①人口減少の加速化

長期的に続いている人口減少は、転入より転出が多い転出超過の拡大と、若い世代の減少に伴う出生数の減少及び高齢化に伴う死亡数の増加によって、加速化する状況にあります。転出超過をくい止めると共に若い世代の移住を促す施策が求められます。

### ②若い世代の転出

15～29歳の若い世代の転出超過が長期的に続いており、人口減少の大きな要因になっているとともに、年齢構成のアンバランスが、さらに拡大しています。

### ③高齢者の厚い層

団塊の世代より上の高齢者の層が厚く、今後一定期間は高齢化率の上昇が続き、後期高齢者の割合もさらに上昇することが予測されます。

### ④合計特殊出生率の高さ

子どもを産む中心的な年代である20～39歳の若い世代は転入より転出が多いものの、合計特殊出生率は、近隣市町と比べても高く推移しています。しかし、近年は本町の合計特殊出生率はやや減少していることから、一層の子育てにやさしいまちをめざすことが求められます。

### ⑤近隣市町・近隣府県への転出超過

転出超過は、近隣市町、特に豊岡市、大阪府との関係で最も多くみられ、若い世代の求める雇用の場や時代にあった地域をつくる総合的な施策が求められます。

## (5) 人口の変化が町の将来に与える影響

今後、人口減少が加速することに伴って、香美町の地域社会にどのような影響が予測されるかが問われますが、ここでは、香美町人口ビジョン・総合戦略を検討する過程で出された意見及び既に提示されている国や兵庫県の人口ビジョンをもとに整理すると以下のとおりとなります。

### ①住民生活について

- ア. 子育て世帯の孤立化が進む。
- イ. 医療・介護需要が増大し、多様化する。
- ウ. 人口減等により消費減になり、商店、企業など民間施設が減少する。
- エ. 地域の伝統や文化が失われる。
- オ. スポーツ・文化・娯楽等余暇を楽しむ機会が減少する。
- カ. 空教室が増え、学校の存続が危ぶまれるようになる。
- キ. 高齢者・単身者など、住宅のニーズが多様化する。

### ②経済・雇用について

- ア. 労働人口の減少等により地域産業が衰退する。
- イ. 農業・水産業をはじめ、中小企業等の後継者不足が進む。
- ウ. 農家の高齢化や廃業が進む。
- エ. 漁業者の高齢化や廃業が進み、漁船が減少する。

### ③地域づくりについて

- ア. 地域を支える担い手が高齢化し、地域活力が低下する。
- イ. ボランティアの人材が不足するようになる。
- ウ. 空地・空き家が増加する。
- エ. 担い手の減少により農地・森林の荒廃が進む。
- オ. インフラの需要が変化し、老朽化が進む。

### ④行政サービスについて

- ア. 税収減になり、行政サービスの低下が危惧される。

## 3. 将来推計人口

### (1) 国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口

#### ①推計の方法

社人研は、下記的前提条件をもとに、2015（H27）年を基準年として、5年ごとに2045（R27）年までを推計していることから、同じ条件で2065（R47）年まで延伸しています。

#### ②前提条件

出生	・2015年の全国の子ども女性比と町の子ども女性比との比が概ね維持されるものとして2020年以降に仮定 ・合計特殊出生率を1.706～1.767の間で推移すると仮定
死亡	・64歳以下は全国と県の生残率の比（2010年→2015年）から算出 ・65歳以上は県と町の生残率の比（2005年→2010年）から算出
社会増減	・2010年～2015年の国勢調査に基づく移動率が、2040年以降継続すると仮定 ※2010年～2015年の純移動率＝転入－転出（5年間）／2010年総人口

#### ③推計値

「2015（H27）年18,070人」を基準として、2045（R27）年には9,076人、2065（R47）年には4,833人となり、大幅に減少すると推計しています。

なお、社人研による2045（R27）年の推計人口は、人口ビジョン（第1版）で掲げていた2045年の目標人口（10,388人）よりも1,312人も少ない結果となっており、人口ビジョン（第1版）で掲げた目標達成は困難な状況を示しています。

### (2) 国の指導によるシミュレーション

#### ①前提条件

前記社人研の推計を基に、下記的前提条件を加えて推計することになっています。

- ア. 合計特殊出生率は、2030（R12）年までに2.07（人口置き換え水準）まで上昇し、以降2.07で一定すると仮定
- イ. 前記アに加え、純移動率がゼロで推移すると仮定

#### ②推計値（移住世帯の加算なし）

- ア. 2045年には9,351人、2065年には5,152人となります。

【シミュレーション1参照】

- イ. 2045年には13,191人、2065年には11,392人となります。

【シミュレーション2参照】

- ウ. 純移動率の影響が極めて大きいことが窺えます。

### (3) 町の将来人口推計の検討

#### ①人口の状況

香美町の人口は、2019 (R1) 年 9 月 1 日現在 17,453 人 (住民基本台帳人口)、世帯数は 6,532 世帯で、長期的に減少を続けており、特に近年減少が著しくなっています。

(※改定前の人口ビジョンでは 2015 (H27) 年に 18,252 人と推計していましたが、国勢調査 (2015. 10) では 18,070 人となっており、既に 182 人減少している結果となりました。)

#### ②前提条件

##### ア. 合計特殊出生率

1) 改定前の人口ビジョンでは、2015 (H27) 年で 1.89 と仮定していましたが、国勢調査の結果は 1.82 となっており、乖離が生じています。

そのため、今回は改めて仮定値を設定し直すこととします。

2) 今回の社人研の推計では、2020 (R2) 年には 1.724、2045 (R27) 年には 1.726 となり、その後、一定と設定していますが、町は既に 2015 (H27) 年に 1.82 に達していることを踏まえると、将来の合計特殊出生率を町独自に設定する必要があります。

3) 国の長期ビジョンより、国においては人口 1 億人を維持する前提で、2015 (H27) 年に全国 1.45 の合計特殊出生率を 2040 (R22) 年以降は 2.07 とする推計値が示されています。すなわち、合計特殊出生率は 2040 年 (R22) には 1.428 倍に上昇することになります。

4) 一方、町においては、すでに 2015 (H27) 年に 1.82 の水準にあることから、国の増加率の 2 分の 1 程度の 1.214 倍を見込むものとし、2065 (R47) 年に 2.21 と設定し、2015 (H27) 年以降、1.82 から増加するものと仮定します。

##### イ. 純移動率

前記の純移動率については、大幅な転出超過となっている現状を鑑みると、移動率をゼロと見込むのは非現実的であり、社人研が示す値と同じとします。

#### ③推計値 (移住世帯の加算なし)

ア. 2045 (R27) 年には 9,282 人、2065 (R47) 年には 5,113 人となります。

##### 【独自推計参照】

イ. 合計特殊出生率の影響は比較的小さいことが窺えます。

## (4) 移住世帯の加算の検討

### ①推計の考え方

前記の推計値に、香美町総合戦略における「移住対策」の内容を加味し、下記前提条件による移住世帯を見込みます。

【独自推計参照】

### ②前提条件

ア. 移住世帯を、「夫婦+子ども2人」の原則4人家族と想定します。(男女の比は1:1と想定)

ただし、「夫婦が20~24歳」の場合は、「夫婦+子ども1人」の3人家族と想定します。

イ. 移住世帯の人口構成については、夫婦を20~39歳と想定し、その比率は2017年及び2018年の転入人口に準ずるものとします。

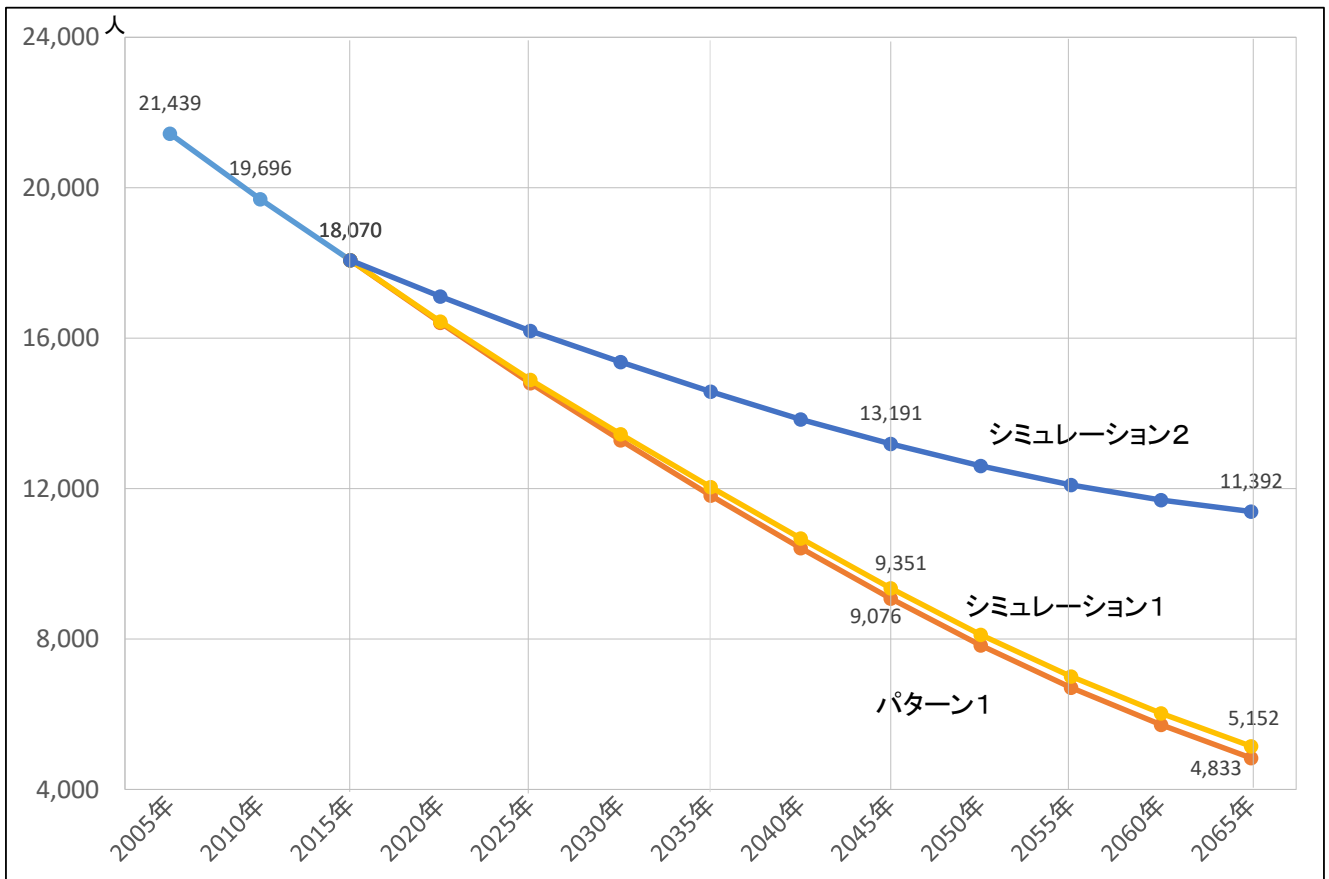
区分	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳
2017年	37	53	30	29
2018年	47	43	25	20
平均	42.0	48.0	27.5	24.5
比率	30%	34%	19%	17%
移住世帯	<u>A</u>	<u>B</u>	<u>C</u>	<u>D</u>

ウ. 子どもの年齢は、夫婦の年齢に対応して、下記の通り想定します。(男女の比は1:1と想定)

区 分	A 夫婦	B 夫婦	C 夫婦	D 夫婦
	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳
子どもの年齢 0~4歳	1人	2人	1人	
子どもの年齢 5~9歳			1人	1人
子どもの年齢 10~14歳				1人

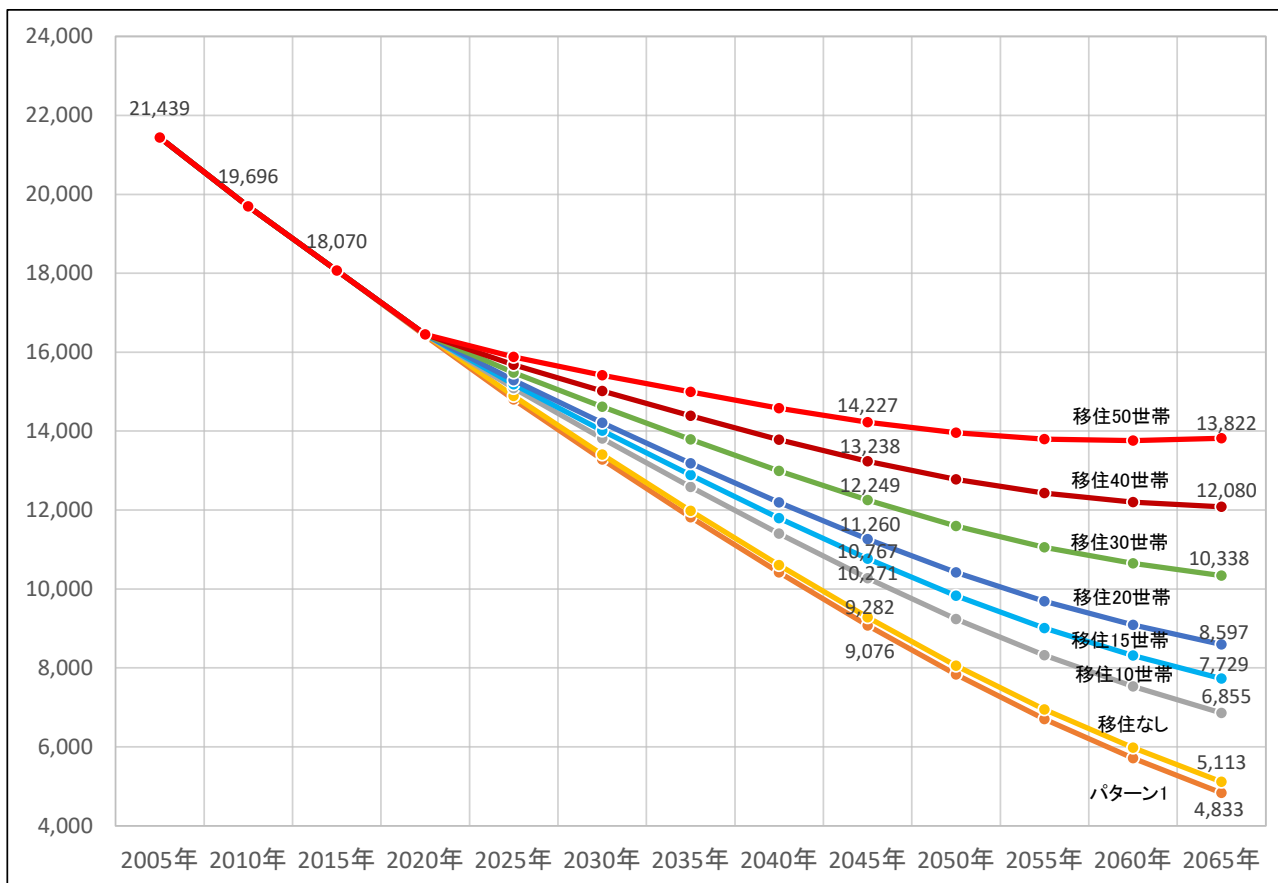
エ. 政策的に若い世帯の新たな移住を進めており、今回は2021(R3)年から2025(R7)年の5年間の移住分を2025(R7)年に加算し、2026(R8)年以降も同様とします。

■ 国立社会保障・人口問題研究所、日本創成会議による人口推計



- ・ パターン1：社人研推計準拠
- ・ シミュレーション1：パターン1+出生率が上昇した場合を想定
- ・ シミュレーション2：シミュレーション1+移動率がゼロとなった場合を想定

■町独自推計



- ・パターン1：トレンドによる推計「社人研推計準拠」
- ・町独自推計1：合計特殊出生率が2065年に2.21に上昇
- ・町独自推計2：毎年10世帯の移住を加算
- ・町独自推計3：毎年15世帯の移住を加算
- ・町独自推計4：毎年20世帯の移住を加算
- ・町独自推計5：毎年30世帯の移住を加算
- ・町独自推計6：毎年40世帯の移住を加算
- ・町独自推計7：毎年50世帯の移住を加算



## ■国による将来人口推計

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
合計特殊出生率(tfr)		1.724	1.706	1.714	1.717	1.718	1.726	1.726	1.726	1.726	1.726
パターン1(社人研)	18,070	16,411	14,805	13,283	11,815	10,419	9,076	7,830	6,706	5,716	4,833
合計特殊出生率(tfr)		1.833	1.967	2.100	2.100	2.100	2.100	2.100	2.100	2.100	2.100
シミュレーション1	18,070	16,442	14,896	13,448	12,039	10,678	9,351	8,115	7,002	6,023	5,152
シミュレーション2	18,070	17,113	16,193	15,364	14,582	13,839	13,191	12,604	12,095	11,696	11,392

注：シミュレーションの前提条件として、合計特殊出生率については2030（R12）年までに2.07まで上昇し、以降2.07で一定と記されているが、国が提供したワークシートでは上記のとおり2.100の数字を使用している。

## ■町独自推計

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
合計特殊出生率(tfr)	1.82	1.86	1.90	1.94	1.98	2.02	2.05	2.09	2.13	2.17	2.21
移住なし	18,070	16,449	14,888	13,408	11,978	10,604	9,282	8,056	6,950	5,978	5,113
移住10世帯(毎年)	18,070	16,449	15,087	13,810	12,581	11,399	10,271	9,237	8,319	7,534	6,855
移住15世帯(毎年)	18,070	16,449	15,187	14,012	12,884	11,798	10,767	9,830	9,007	8,315	7,729
移住20世帯(毎年)	18,070	16,449	15,286	14,212	13,185	12,193	11,260	10,417	9,689	9,090	8,597
移住30世帯(毎年)	18,070	16,449	15,485	14,614	13,788	12,988	12,249	11,598	11,058	10,647	10,338
移住40世帯(毎年)	18,070	16,449	15,684	15,016	14,391	13,782	13,238	12,779	12,427	12,203	12,080
移住50世帯(毎年)	18,070	16,449	15,884	15,418	14,995	14,577	14,227	13,959	13,796	13,760	13,822

## ■移住世帯の構成

	増加世帯10世帯		増加世帯15世帯		増加世帯20世帯		増加世帯30世帯		増加世帯40世帯		増加世帯50世帯	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0～4歳→5～9歳	5.5	5.5	8.3	8.3	11.0	11.0	16.5	16.5	22.0	22.0	27.5	27.5
5～9歳→10～14歳	2.0	2.0	3.0	3.0	4.0	4.0	6.0	6.0	8.0	8.0	10.0	10.0
10～14歳→15～19歳	1.0	1.0	1.5	1.5	2.0	2.0	3.0	3.0	4.0	4.0	5.0	5.0
20～24歳→25～29歳	3.0	3.0	4.5	4.5	6.0	6.0	9.0	9.0	12.0	12.0	15.0	15.0
25～29歳→30～34歳	3.0	3.0	4.5	4.5	6.0	6.0	9.0	9.0	12.0	12.0	15.0	15.0
30～34歳→35～39歳	2.0	2.0	3.0	3.0	4.0	4.0	6.0	6.0	8.0	8.0	10.0	10.0
35～39歳→40～44歳	2.0	2.0	3.0	3.0	4.0	4.0	6.0	6.0	8.0	8.0	10.0	10.0
合計	18.5	18.5	27.8	27.8	37.0	37.0	55.5	55.5	74.0	74.0	92.5	92.5

■年齢5歳階級別人口の比較

	移住なし			毎年10世帯移住		毎年15世帯移住		毎年20世帯移住		毎年30世帯移住		毎年40世帯移住		毎年50世帯移住	
	2015年	2045年	2065年	2045年	2065年	2045年	2065年	2045年	2065年	2045年	2065年	2045年	2065年	2045年	2065年
総数	18,070	9,282	5,113	10,271	6,855	10,767	7,729	11,260	8,597	12,249	10,338	13,238	12,080	14,227	13,822
0～4歳	585	234	132	309	246	347	303	384	359	459	473	535	586	610	700
5～9歳	664	278	150	398	309	458	390	517	468	636	627	756	786	875	945
10～14歳	816	323	172	447	340	509	424	571	508	695	676	819	844	943	1,012
15～19歳	816	297	159	390	295	437	363	483	431	576	567	669	703	763	839
20～24歳	464	178	95	219	161	240	195	260	227	301	294	342	360	384	426
25～29歳	573	245	129	315	229	350	279	385	329	456	429	526	529	596	629
30～34歳	720	262	144	334	262	371	322	407	381	480	500	553	618	625	737
35～39歳	816	288	164	371	293	413	357	454	421	537	550	621	679	704	808
40～44歳	994	356	190	453	330	501	400	549	470	646	611	742	751	839	891
45～49歳	975	430	221	523	350	569	415	616	479	709	609	802	738	895	867
50～54歳	1,167	448	240	512	344	545	396	577	448	641	551	706	655	770	759
55～59歳	1,355	493	270	530	366	549	414	568	462	605	558	642	655	680	751
60～64歳	1,495	645	333	664	423	673	468	682	513	701	603	719	693	738	783
65～69歳	1,497	720	402	720	489	720	533	720	576	720	663	720	751	720	838
70～74歳	1,328	853	412	853	471	853	500	853	530	853	589	853	648	853	708
75～79歳	1,259	808	418	808	450	808	466	808	482	808	513	808	545	808	577
80～84歳	1,207	851	474	851	488	851	494	851	501	851	515	851	529	851	543
85～89歳	857	762	435	762	435	762	435	762	435	762	435	762	435	762	435
90歳以上	482	813	575	813	575	813	575	813	575	813	575	813	575	813	575

注：数値は小数点以下を四捨五入しており、合計値と総数が一致しない場合がある。

## 4. 人口の将来展望

### (1) 若者の将来意向

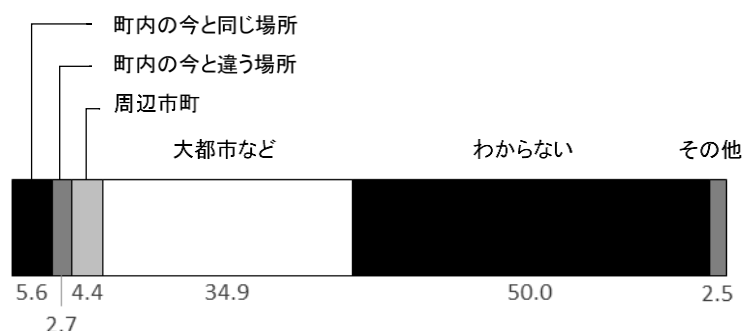
高校生を対象にアンケートを実施し、若者の将来展望等についての意向を把握しました。

高校生が、香美町から外へ出る最大の理由は、「自分に向けた仕事がない」ことと考えられますが、香美町が今以上に活性化すれば「住み続けたい」人が2割以上、「まだわからない」人と合わせると、半数近くは香美町で住み働きたいと考えており、また、外からも若い人に来て欲しいと考えています。

#### ■アンケート概要

- (1) 調査対象 兵庫県立香住高等学校及び県立村岡高等学校生徒（悉皆調査）
- (2) 調査期間 平成27年5月19日～6月22日
- (3) 回収結果 配布数：487人 有効回答数：482人（有効回答率99.0%）

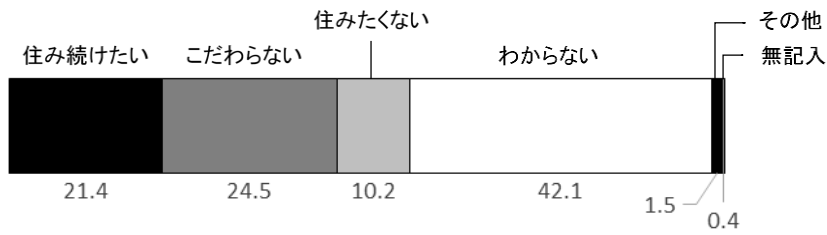
#### ■将来、社会人になったら、あなたはどこに住んでいると思いますか。



#### ■香美町から外に出られる場合、その理由は何ですか。

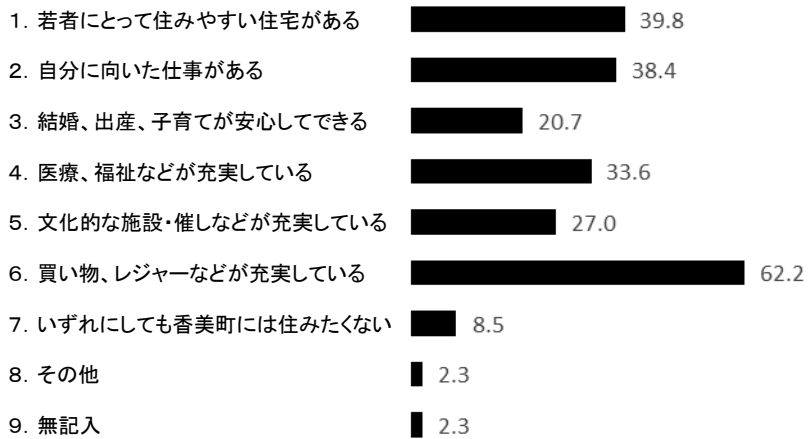


■ 将来、まちが今以上に活性化すれば、香美町で住み働きたいという気持ちはありますか。



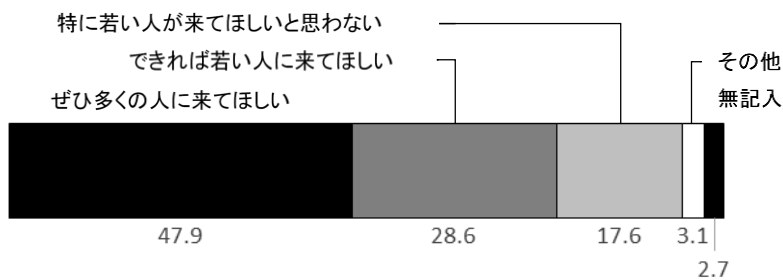
数字は%

■ 香美町に住み続けたいと思えるまちとなるには、どのようなことが必要だと考えますか。



数字は%

■ 香美町に外から若い人が入ってくることについて、どのように考えますか。



数字は%

## (2) めざすべき将来の方向と今後の基本戦略

人口の現状分析、将来展望に必要な調査分析の結果を踏まえ、人口減少に歯止めをかけるために香美町がめざすべき将来の方向は以下のとおりとします。

### ① 移住・定住に関する希望を実現する

若い世代をはじめ、多世代が希望をもって定住でき、町外からも移住を促す上で、香美町がより魅力あるまちとして選ばれる条件を整えることが求められます。そのためには、若い世代に向けた住環境の整備や買物、楽しみ、健康づくりなど、香美町の自然の良さを生かしつつ、新しい要素が加えられる必要があります。合わせて仕事や住まい、子どもの教育など総合的な情報発信や支援、受入れ体制を通じてU・Iターンを進めることが必要です。

### ② 若い世代の結婚・子育て等に関する希望を実現する

香美町は元来、出生率が高く子育て世代にとって比較的恵まれた条件を整えてきましたが、そのよさを今後も伸ばしていくとともに、生活環境だけではなく、安心して出産できる環境づくりや医療の充実、そして、子育てに伴う不安や不便がないような地域社会にしていくことが求められます。

さらには、若い世代のために多様な雇用の場が確保されて、仕事と家庭の両立しやすい環境を整え、香美町で結婚し、出産、子育てをする世代そのものが増えるようにすることが不可欠です。

### ③ 多様な地域を形成する

香美町には自然の豊かさや歴史・文化の豊かさといった良さとともに、良質な住宅や、米作や畜産、松葉ガニなど水産資源に代表される根強い地域産業に支えられてきた経過があります。それらをさらに活かしつつ、観光や6次産業化への展開を促し、経済力を高めると共に、中山間地域や集落における小さな拠点づくり、コミュニティづくりや周辺地域との連携により、住み良さを高め、日常的な交通や防犯、防災などを含め、安心・安全のまちをつくり、合わせて多くの人々が交流し、ライフスタイルに即した暮らしができる、時代にあった地域の創出が求められています。

### (3) 人口の将来展望

香美町の人口は、新たな社人研の推計（2018年3月公表）によると、2060（R42）年には、2015（H27）より12,354人減少して5,716人（改定前は7,463人）、2065（R47）年には、13,237人減少して4,833人になるとされています。

香美町に限らず、全国的にも少子高齢化が進み、人口が減少するのはやむを得ないことですが、このまま推移すると、2015（H27）年に2,065人であった「0～14歳」の子どもの数は、2060（R42）年には390人、2065（R47）年には324人に減ってしまうこととなります。

2065（R47）年に合計特殊出生率が2.21まで上昇すると、子どもの数は2060（R42）年には521人、2065（R47）年には454人に増えますが、それでも、2015（H27）年の2割近くに減ってしまうこととなります。すなわち、今のように若い世代が外に出ていく、減っていくという事態を脱却しなければ、子どもの数が減少し、さらなる人口減少に拍車がかかり、基本的な問題の解決にならないといえます。

次代を担う子どもの数を維持することを基本とした場合、香美町で住みたいという若い世代の希望をかなえ、若い世代の移住・定住を進めることが必要となります。そこで、毎年10世帯程度の移住を実現すれば、2060（R42）年には932人、2065（R47）年には895人となり、今の4割近くの子どもの数を維持することが可能となります。

人口減少そのものを増加傾向にすることは困難としても、若い世代の人口減少に歯止めをかけ、年少人口を維持し、次代を担う子どもへのふるさと教育等を推進し、地域を愛し活性化に貢献する人材を育成することにより持続可能な自律性の高い地域をめざすべきだと考えます。

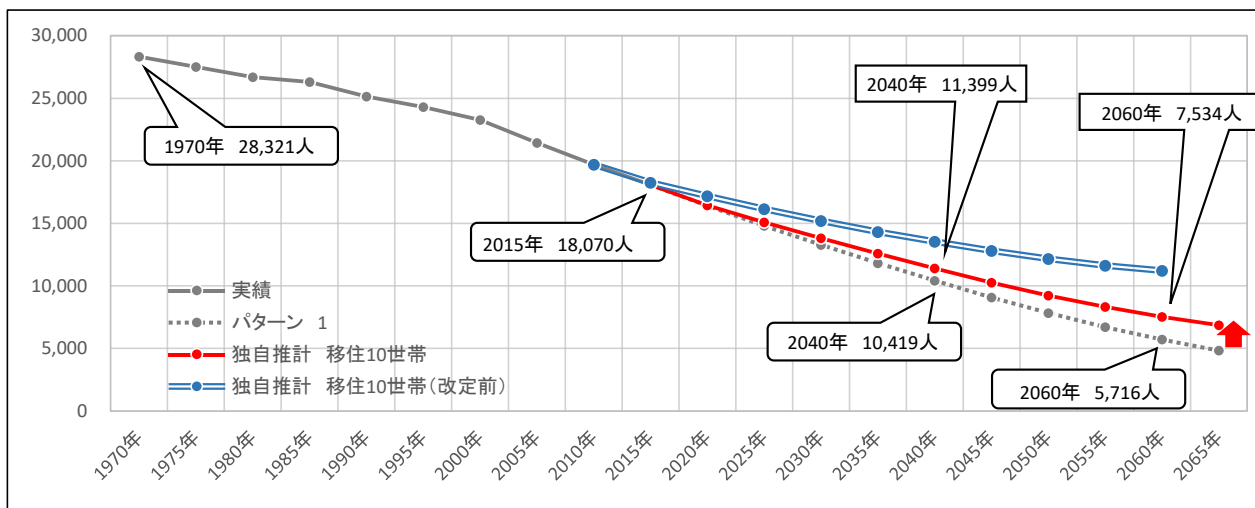
香美町は若い世代の移住・定住を進める施策、結婚・出産・子育ての希望をかなえる施策、そのために必要な若い世代の仕事と住まいの確保や、時代にあった地域づくりを進めることで、第2版では、2025（R7）年に15,000人台を維持することとし、その後の人口を2040（R22）年に11,400人、2060（R42）年では7,500人に食い止めることを目標とします。

（第1版では、2040年：13,500人、2060年：11,200人を目標値としていました。）

2060年（R42）における香美町の目標人口：7,500人				
	2015年	2025年	2040年	2060年
総人口	18,000人	15,100人	11,400人	7,500人
合計特殊出生率	1.82	1.90	2.02	2.17

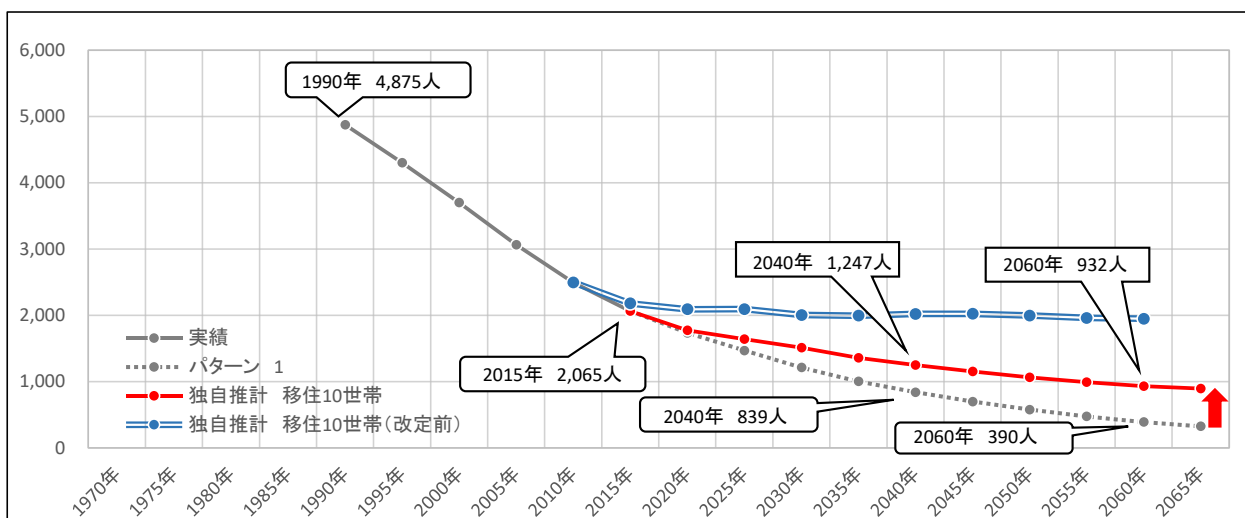
これは、2060（R42）年に合計特殊出生率を2.17に上昇させ、2021（R3）年以降、毎年10世帯の若い世代の移住があるような、総合的な施策を展開することによって実現が可能となるものです。

## ■人口の将来展望



	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
実績	18,070										
パターン 1	18,070	16,411	14,805	13,283	11,815	10,419	9,076	7,830	6,706	5,716	4,833
独自推計 移住10世帯	18,070	16,449	15,087	13,810	12,581	11,399	10,271	9,237	8,319	7,534	6,855
独自推計 移住10世帯(改定前)	18,252	17,180	16,148	15,201	14,316	13,540	12,811	12,161	11,625	11,215	

## ■年少人口（0～14歳）の推移

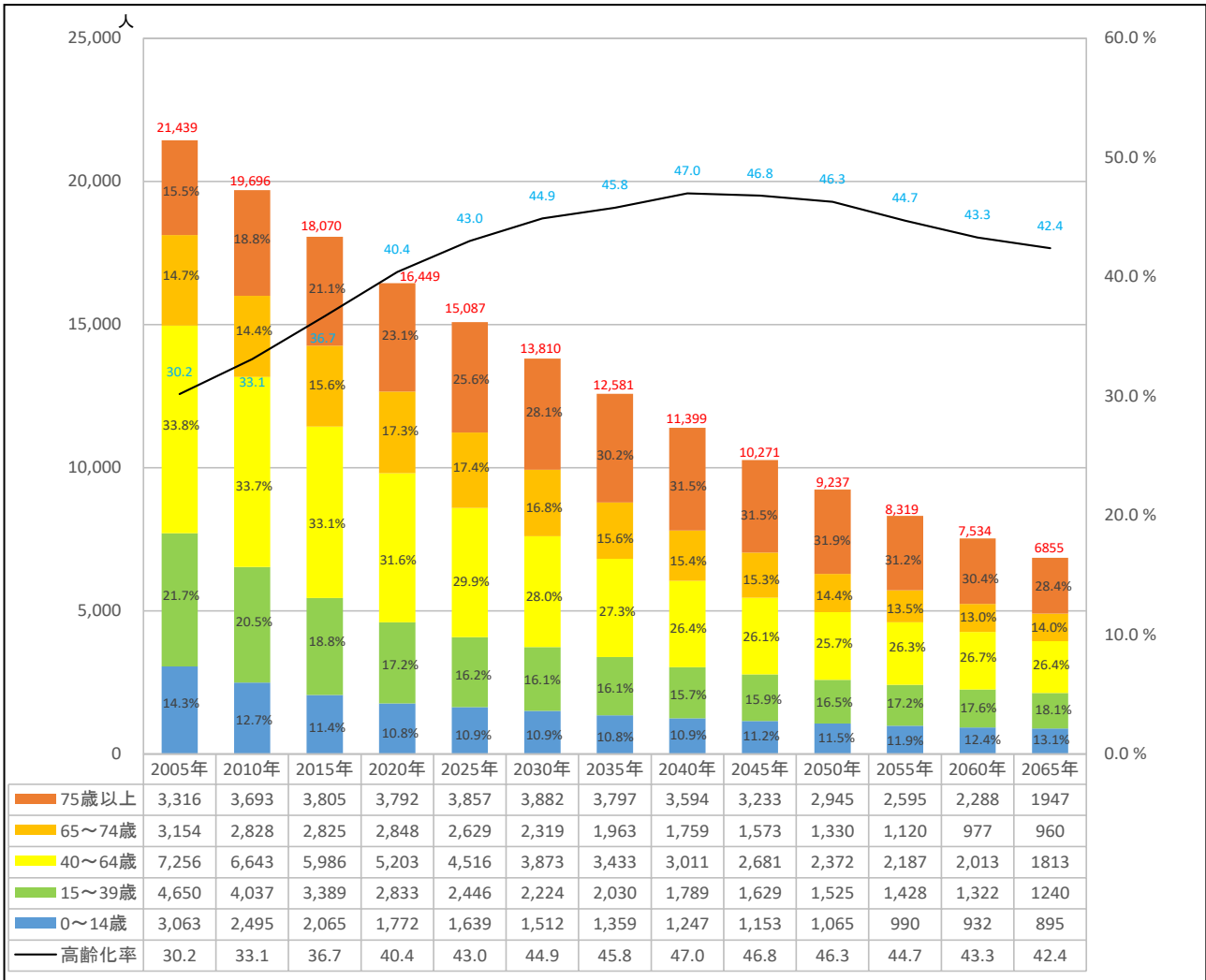


	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
実績	2,065										
パターン 1	2,065	1,734	1,467	1,212	1,002	839	698	576	474	390	324
独自推計 移住10世帯	2,065	1,772	1,639	1,512	1,359	1,247	1,153	1,065	990	932	895
独自推計 移住10世帯(改定前)	2,180	2,090	2,093	2,004	1,994	2,019	2,023	1,996	1,959	1,948	

## 【参考1】地区別推計

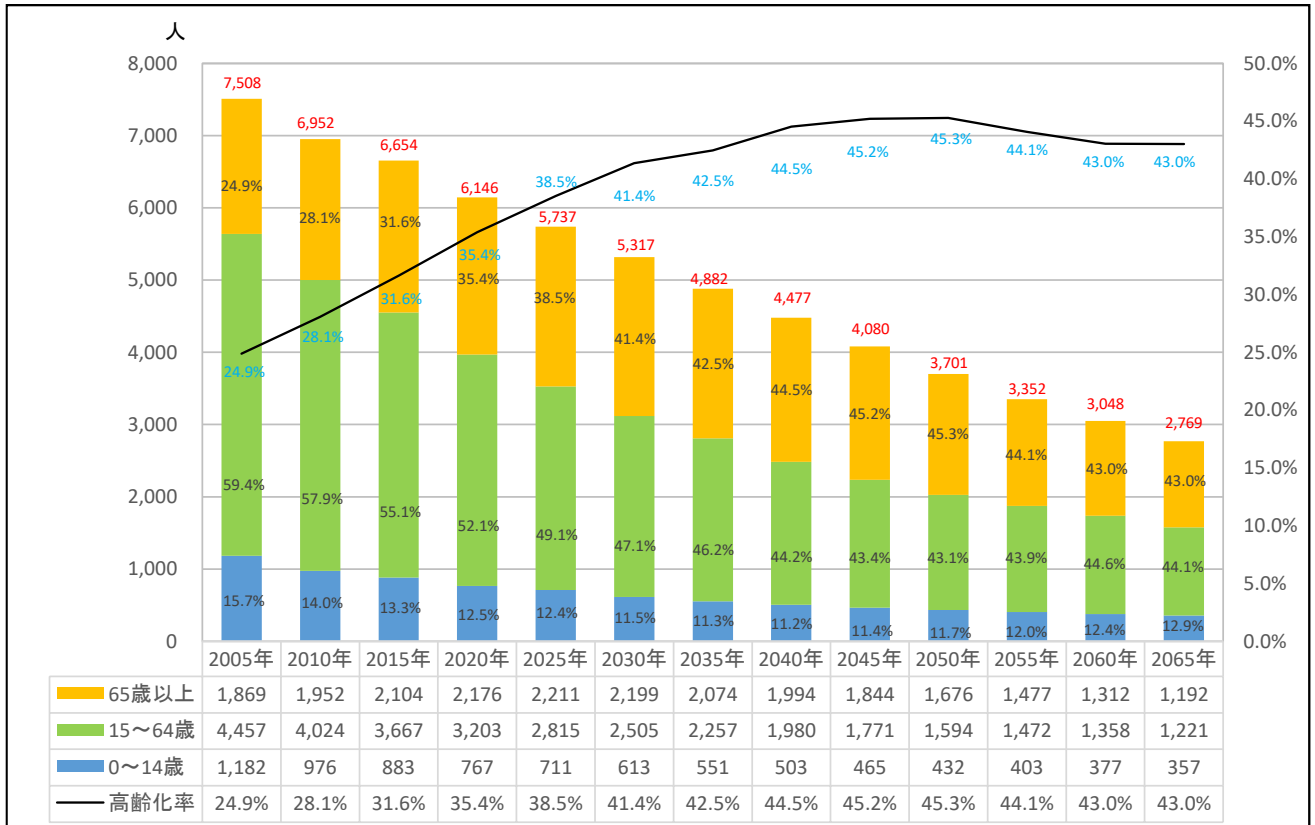
2015 (H27) 年の地区別年齢5歳階級別人口をもとに、全地区が同じ条件で推移するとして、2065 (R47) 年までの人口を推計したものです。

### ■香美町（全町）

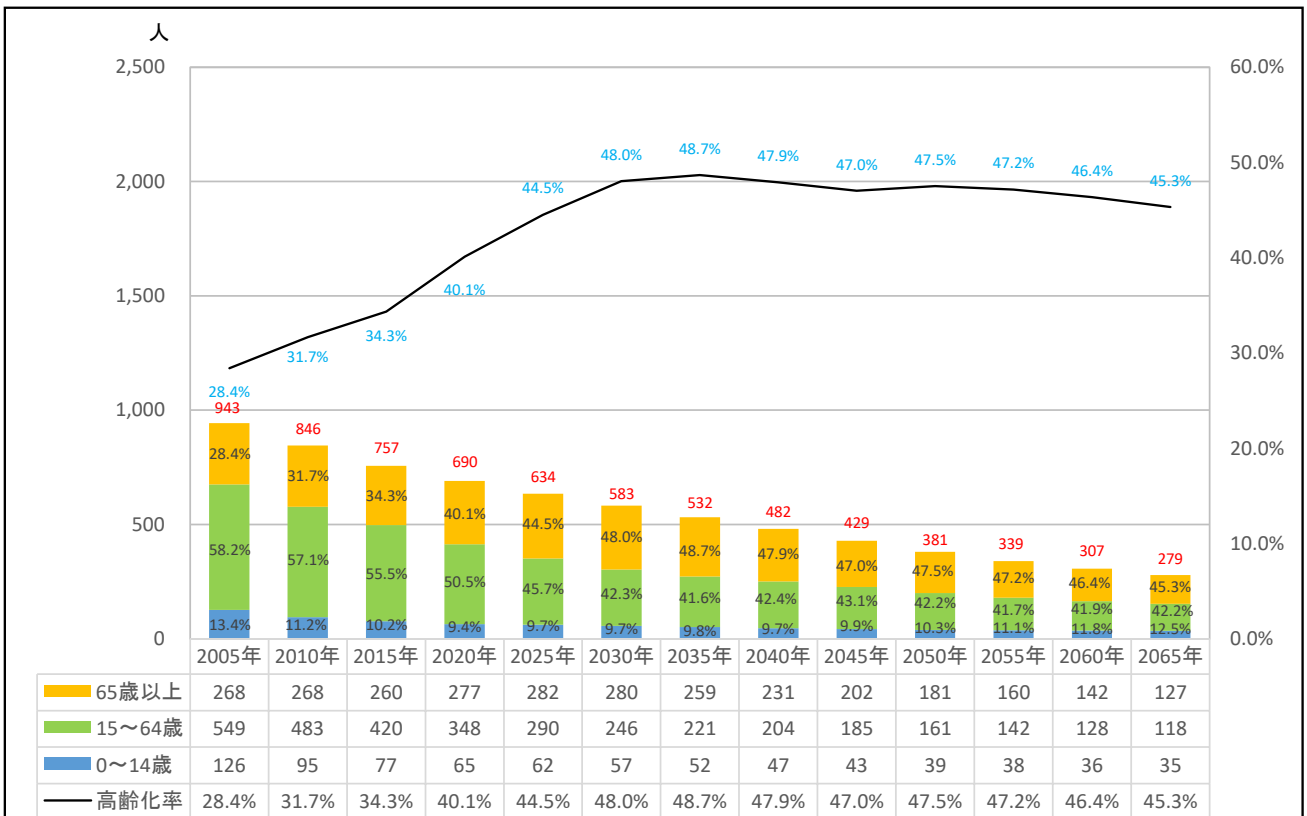




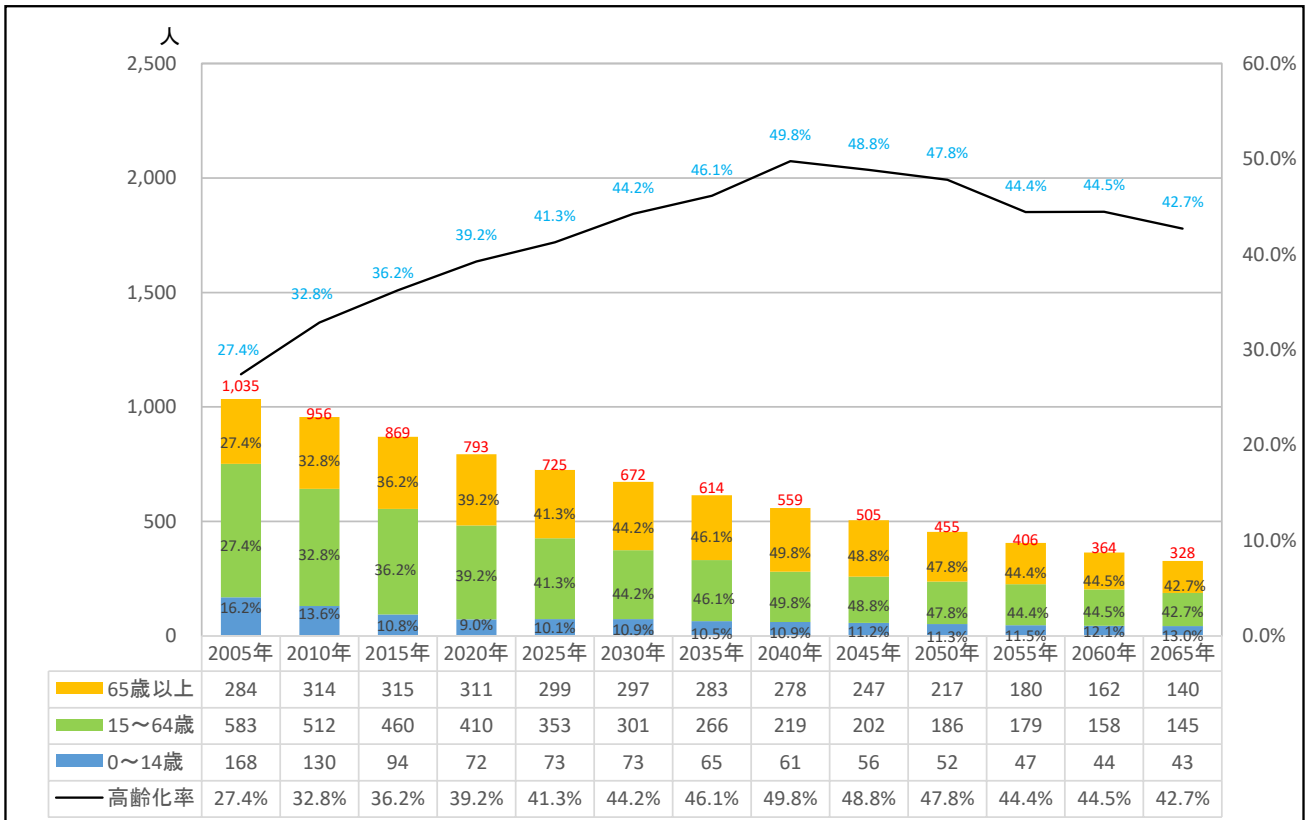
## 1. 香住地区



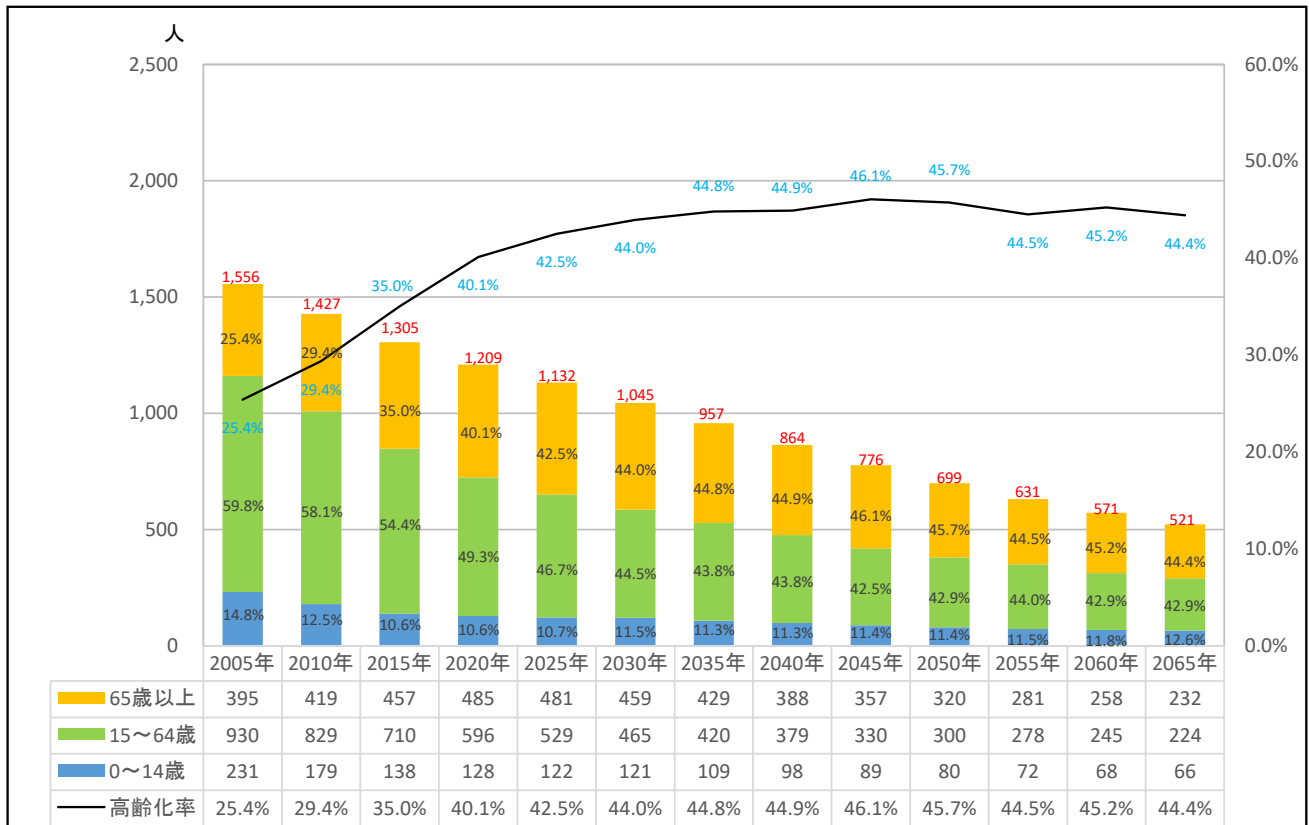
## 2. 奥佐津地区



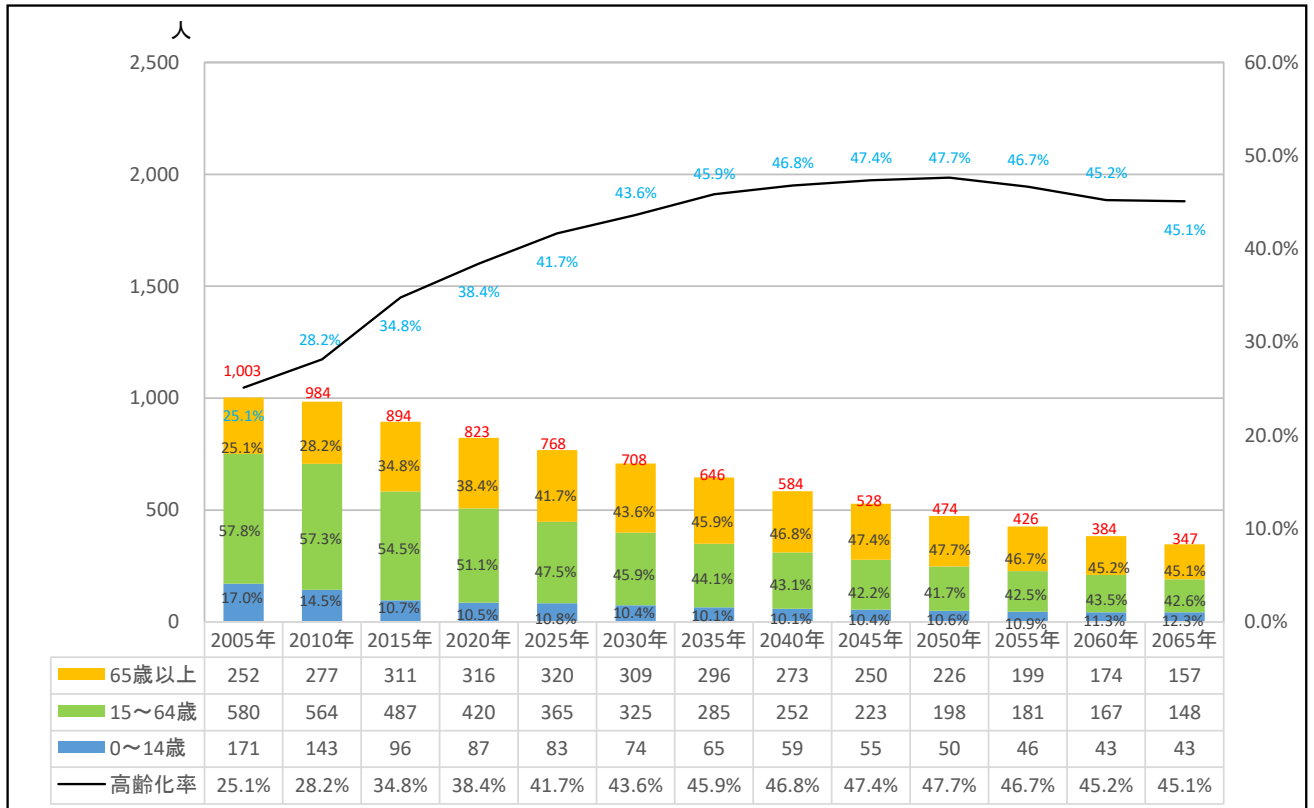
### 3. 佐津地区



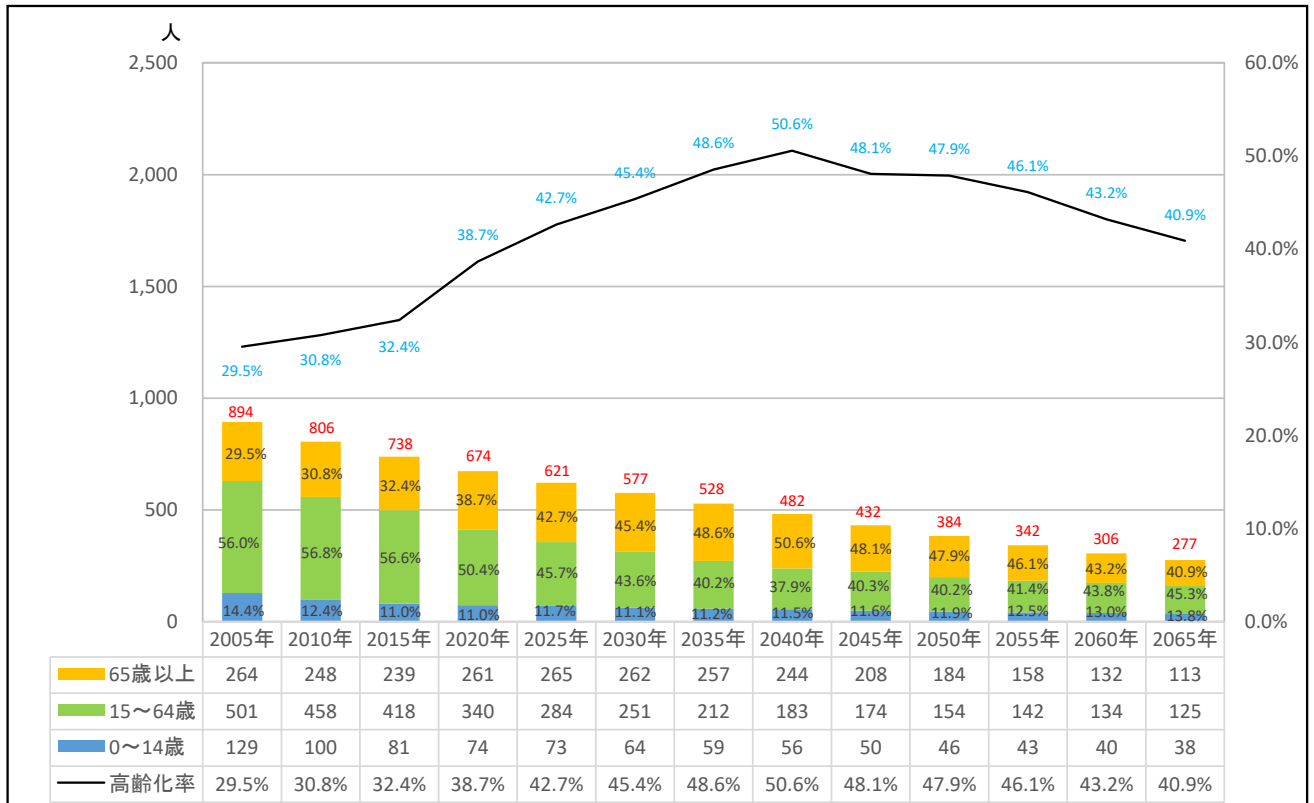
### 4. 柴山地区



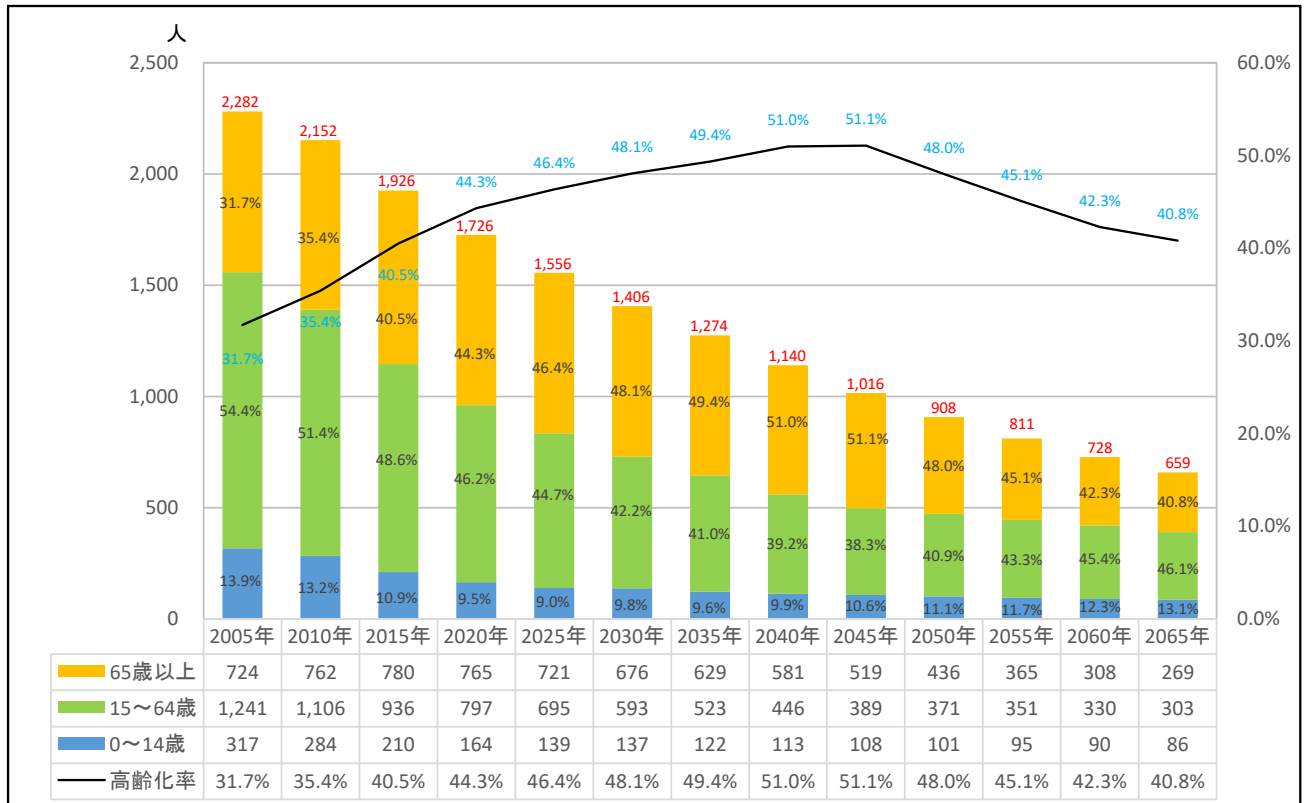
## 5. 長井地区



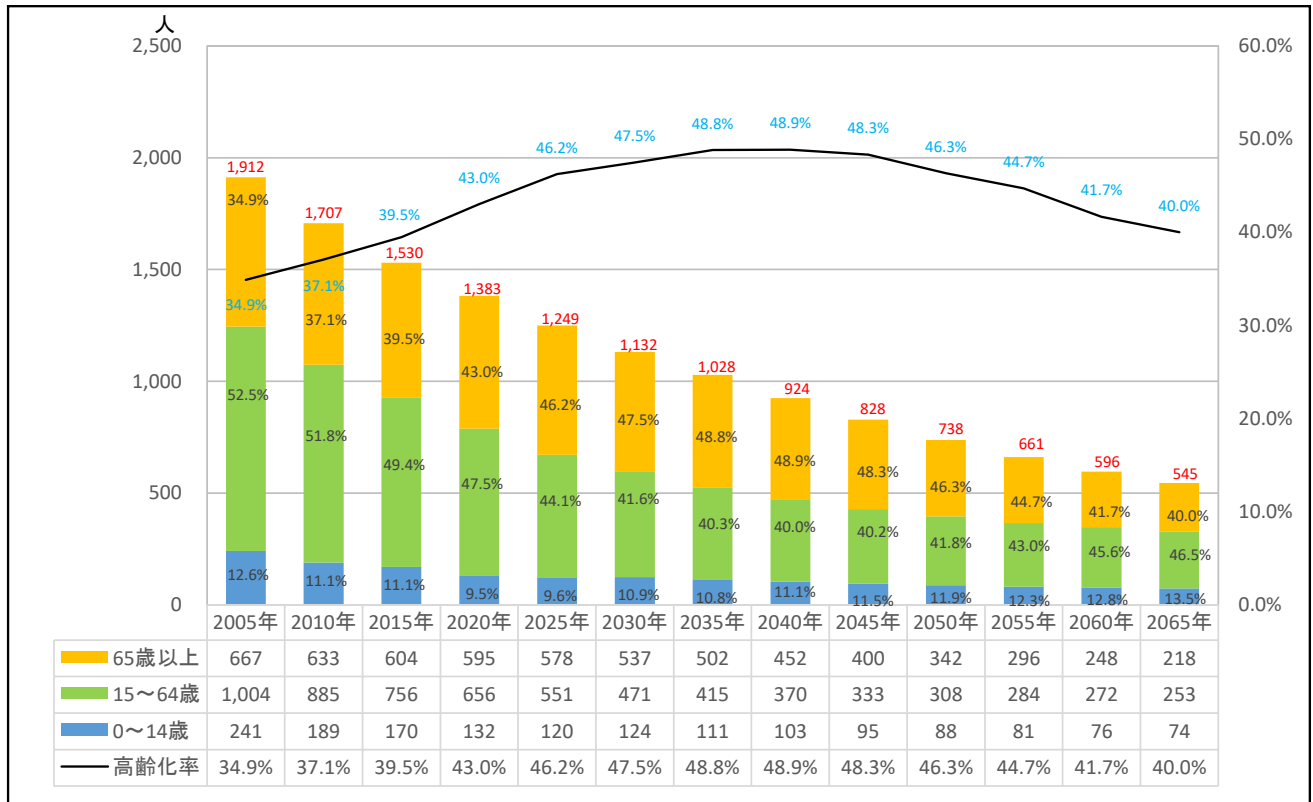
## 6. 余部地区



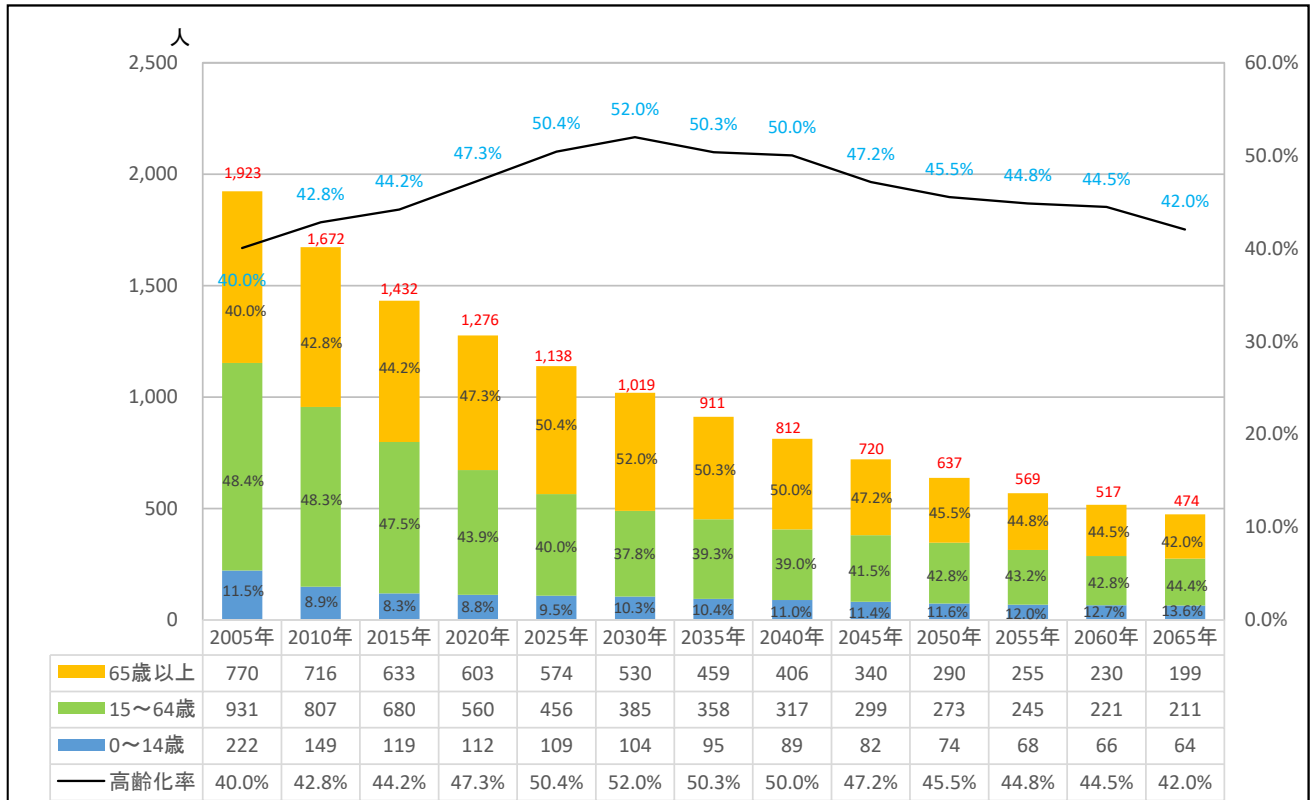
## 7. 村岡地区



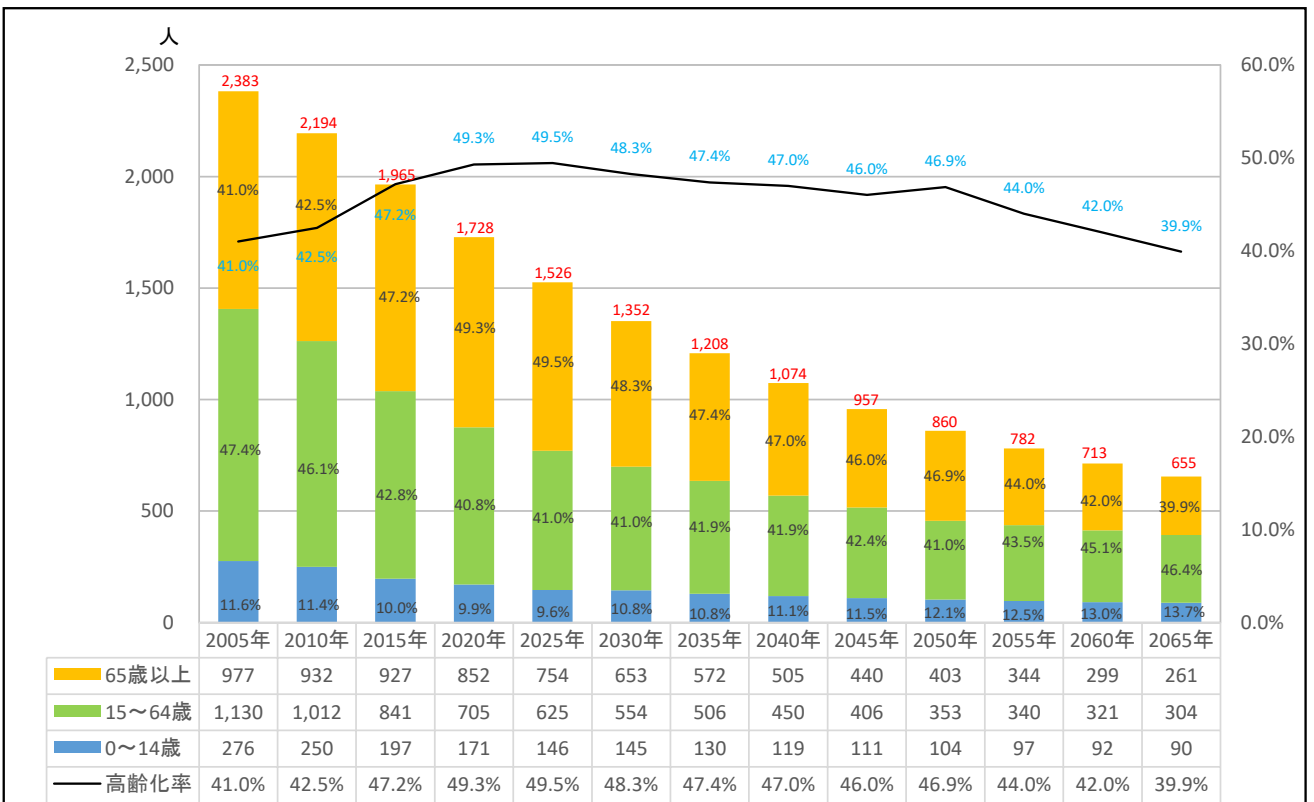
## 8. 兔塚地区



## 9. 射添地区

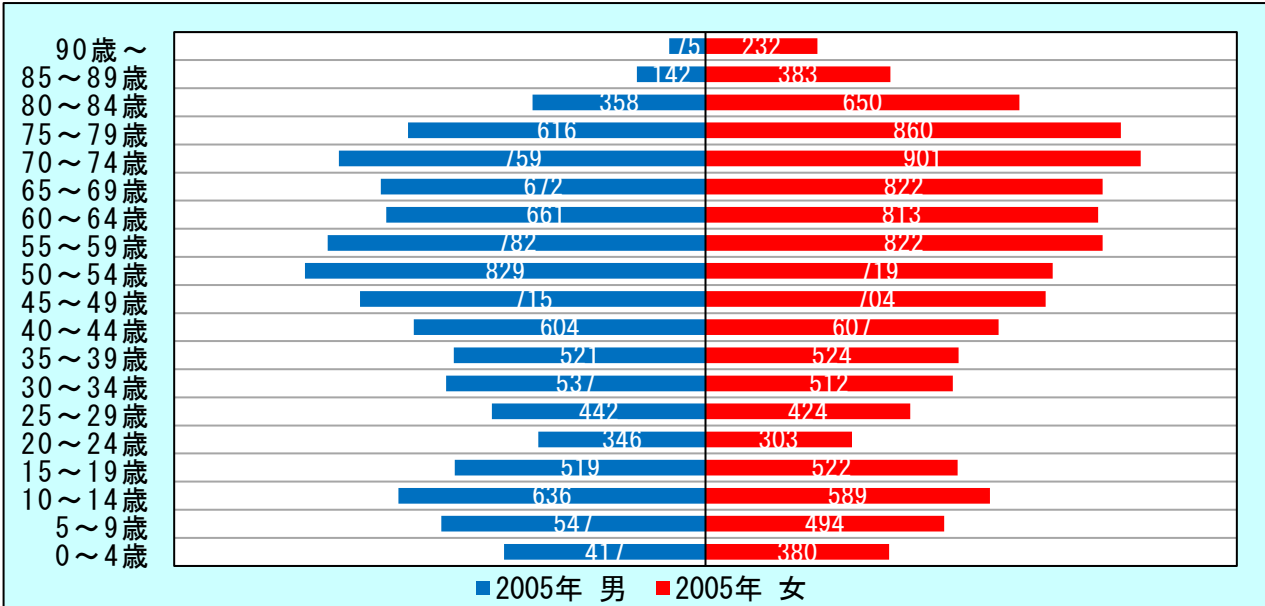


## 10. 小代地区

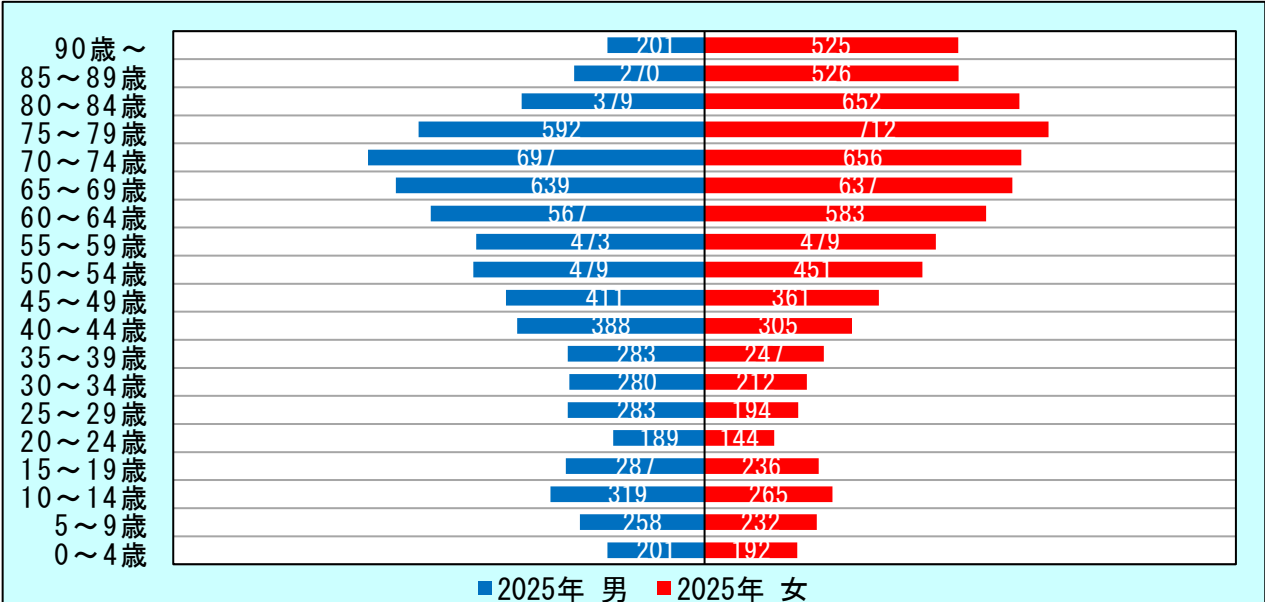


## 【参考2】人口ピラミッド（2005年、2025年、2045年）

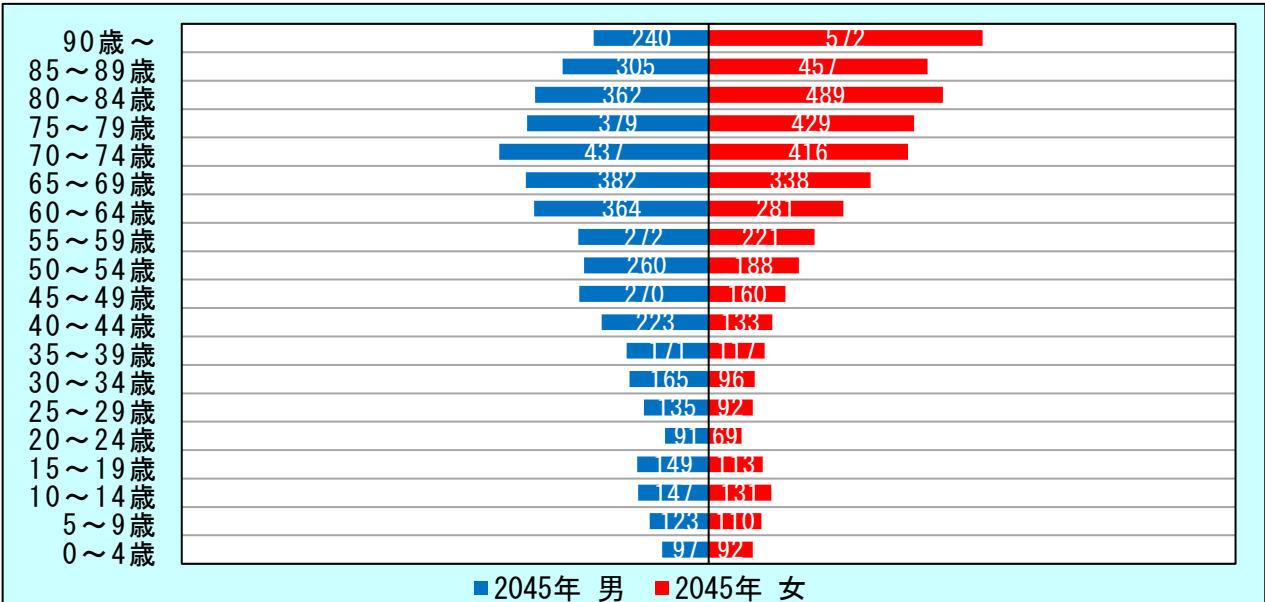
■2005年人口ピラミッド（21,439人（国勢調査（2015.10）））



■2025年人口ピラミッド（14,805人（社人研予測（2018.3）））



■2045年人口ピラミッド（9,076人（社人研予測（2018.3）））





# 香美町人口ビジョン

2015（平成27）年10月 第1版

2019（令和元）年10月 第2版

発行：兵庫県香美町

〒669-6592 兵庫県美方郡香美町香住区香住 870-1

TEL 0796 (36) 1111 FAX 0796 (36) 3809

URL <http://www.town.mikata-kami.lg.jp>